

奥村泰宏写真コレクションのボーイズホーム関連記録写真



(1) 横浜市戦災者同盟テントに保護された児童たち  
1946年（昭和21）頃



(2) ボーイズホームを訪れたフラナガン神父  
1947年（昭和22）



(3) ボーイズホーム外観  
1950年（昭和25）



(4) ボーイズホームの子どもたち  
1950年（昭和25）



(5) ボーイズホームの支援を行った米兵との記念写真  
1955年（昭和30）



(7) 伊勢佐木町のヨコハマクラブ前で兵士に金をせびる児童  
1950年（昭和25）



(6) ボーイズホームの支援を行った米兵との記念写真  
1955年（昭和30）



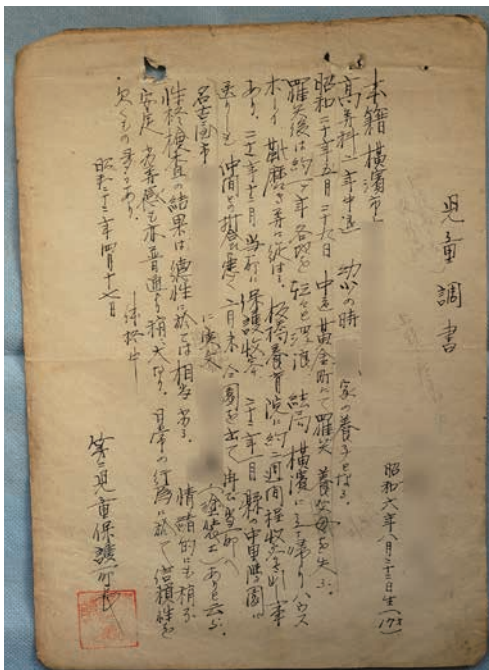
(8) 伊勢佐木町のヨコハマクラブ脇の空き地で靴磨きをする児童  
1951年（昭和26）



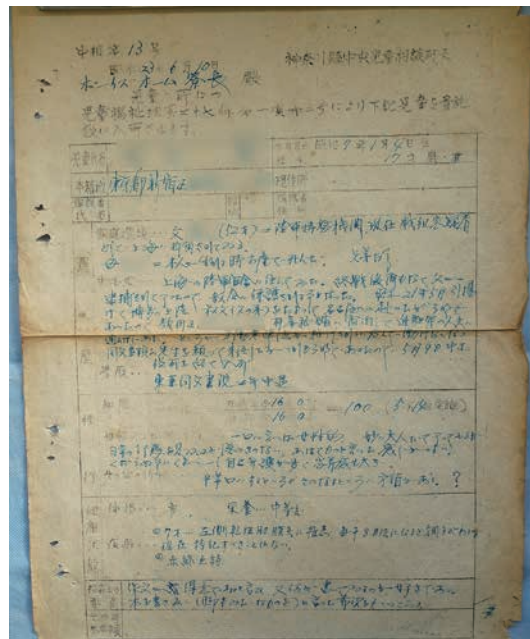
ボーイズホームに保護された児童の調書



(1) 昭和20年代のボーイズホーム資料、上段中央が児童相談所作成の「児童調書」、上段左端がボーイズホーム作成の「自昭・二三・一二 児童台帳」、「児童身上調書」



(2) 初期の「児童調書」書式



(3) 児童福祉法施行後の「児童調書」書式

ボーイズホームに保護された児童の調書

|       |                                                                                    |                 |     |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-----|
| 姓名    | (男) 1929                                                                           | 本籍              | 懷遠市 |
| 入所年月日 | 昭和23年8月27日                                                                         | 籍貫              | 懷遠市 |
| 係屬    | 父兄                                                                                 | 居住              | 所   |
| 家庭環境  | 父兄<br>喪母<br>妹                                                                      | 「聯災」(行方不明) (臨時) |     |
| 學歷    | 西戶部國民學校5年                                                                          |                 |     |
| 出生地   | 本人の学校へ行つて居る所「聯災」(行方不明) 其の結果「聯災」(行方不明) 1年半位の間、<br>昭和22年6月現在、本校へ所定の学費を納付<br>出来、生徒として |                 |     |
| 経歴    | 「聯災」期間、約1年位                                                                        |                 |     |

(4)「自昭・二三・一二 兒童台帳」書式(部分)

|       |                                                                                                                                                        |       |              |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------|
| 姓     |                                                                                                                                                        | 生年(月) | 昭和7.7.24 (水) |
| 籍地    | 北海道 ヲホツ                                                                                                                                                |       |              |
| 離任住所  | 東京都浅草区                                                                                                                                                 |       |              |
| 経歴    | 1. 幼少時札幌<br>2. 短大で文芸に専攻、又大工機、材料研<br>昭。28.3. 終戦直前、東京外回、池田<br>又東北へ消息不明<br>3. 雷文流習作展：70.6 - 八月横浜・女子通信<br>アート大会参加 勸励賞<br>4. 写真展：収蔵品を主会場へ入る即会合<br>同日アス、健康メモ |       |              |
| 在職期間  | 約一年半                                                                                                                                                   |       |              |
| 就客年月日 | 昭37/12末一和原店、紫一路12.6/12                                                                                                                                 |       |              |
| 学歴    | 学校(○)五年卒業、唯一映画(○)恩師計。                                                                                                                                  |       |              |
| 能力    | 1. 家族(清楚明)                                                                                                                                             |       |              |
| 備考    | 思文<br>1人 雑誌十<br>2. 本人「東京で1ヶ月、不十分」 <del>後</del> 八巻：<br>下巻まで                                                                                             |       |              |

#### (5) 「兒童身上調書」書式

[illegible]

史重調書

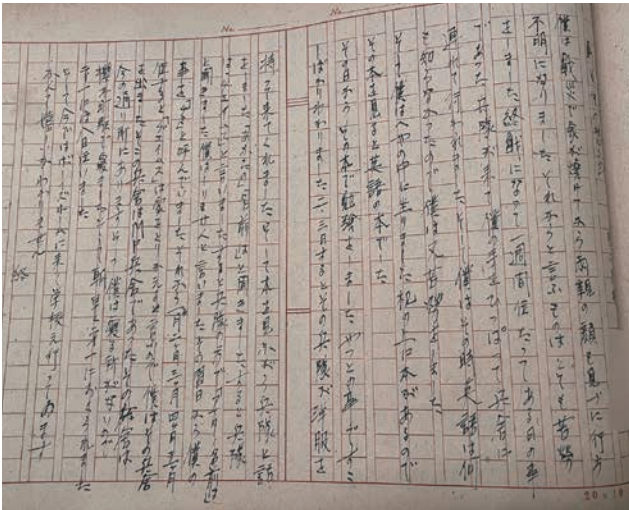
(6) 本文【表1】No.2の児童の調書



ボーイズホームに保護された児童の作文



(1) ボーイズホームで編集されていた『ひまわり』



(2) 【表1】 No91の児童の作文

# 戦後横浜における戦争孤児・「浮浪児」の実態

## —日本厚生団ボーイズホーム資料群の分析より—

西村 健

### はじめに

#### (1) 日本厚生団資料群発見経緯

戦後占領期の日本において、空襲をはじめとした戦争被害や、戦後の混乱の中で家出をして町に浮浪する児童たちの保護は、国家・地方行政において喫緊の課題であったが、公的な保護では間に合わず、民間の社会事業団体が彼らの保護に大きな役割を果たしていた。戦後、数万の占領軍兵士が駐留する基地の町となった横浜でも、多くの児童たちが浮浪生活を余儀なくされ、様々な団体が彼らの保護に尽力していた。しかし、これらの団体の活動は時代の経過とともに風化し、その記憶が途切れつつある。

筆者は、前職の墨田区立すみだ郷土文化資料館において、企画展「戦争孤児－東京空襲と残された子どもたち－」（会期：2011年2月19日～4月24日）、企画展「描かれた戦争孤児－孤児たちの心と表現－」（会期：2013年3月9日～5月12日）を担当し、主担当の田中禎昭専門員（現専修大学文学部教授）と共に、戦争孤児の会代表（当時）の金田茉莉氏の協力の下で戦争孤児であった方々の聞き取り調査を行った<sup>1</sup>。調査の中で、筆者は話者の過酷な体験と現在も継続する心の傷に触れ、戦争孤児の歴史が過去の悲劇ではなく、現在進行形で考えなければならない社会問題であることを強く意識するに至った。

その後、2015年（平成27）に横浜都市発展記

念館に移籍した筆者は、東京と同じく甚大な空襲被害を受けた横浜における戦争孤児をはじめとした、戦争被害者の救済実態を調査すべく、戦後から現在まで活動を継続している市内の社会福祉法人に悉皆調査を行い、その成果を本紀要12号<sup>2</sup>にまとめ、企画展「焼け跡に手を差し伸べて－戦後復興と救済の軌跡－<sup>3</sup>」（会期：2016年10月22日～2017年1月15日）で各団体の所蔵資料を展示した。

本調査では、様々な新発見資料を発掘することができたが、なかでも本稿で取り扱う戦争孤児・「浮浪児」の保護施設、社団法人日本厚生団ボーイズホーム資料群の発見は、最大の調査成果の一つであった。日本厚生団およびボーイズホームの歴史はほぼ横浜の戦後史において忘れられていたが、筆者が横浜市緑区の一般社団法人日本厚生団長津田厚生総合病院に資料の所在を問い合わせたところ、同団の流れを汲む社会福祉法人みどり福祉会の理事長、戸田堯子氏に日本厚生団の歴史について詳細にご教示をいただき、ボーイズホームが同団から離れて、社会福祉法人福光会子どもの園として神奈川県茅ヶ崎市で児童養護施設としての活動を継続していることが明らかになった。この後、戸田氏と共に子どもの園を訪問し、戦後の状況をよく知る同園の和田直熙園長と出会い、ボーイズホームの歴史についての詳細をご教示いただいたほ

1 墨田区立すみだ郷土文化資料館2階展示室のデータベース端末で、本調査の聞き取り調査記録動画を公開している。

2 拙稿「戦後横浜の社会福祉事業－引揚者、浮浪児・戦争孤児、「混血孤児」の保護を中心として－」『横浜都市発展記念館紀要』（第12号、2016年）。

3 企画展の概要は横浜都市発展記念館編『焼け跡に手を差し伸べて－戦後復興と救済の軌跡』（企画展展示図録、横浜市ふるさと歴財団、2016年）を参照されたい。

か、同園に所蔵されている資料群を閲覧させていただく機会を得た。その成果を、企画展での展示<sup>4</sup>に加え、本紀要13号<sup>5</sup>でまとめた結果、大きな反響を得、各種メディアで報じられた他、ジャーナリストの渡辺延志氏<sup>6</sup>、作家の山崎洋子氏<sup>7</sup>の著書や歴史研究者の大西北呂志氏<sup>8</sup>の論文で日本厚生団の歴史が紹介されるなど、周知が進みつつある。

また、2018年（平成30）に子どもの園所蔵資料の追跡調査を行ったところ、和田直熙園長のご厚意により、同園所蔵のボーイズホーム資料群が当館に寄贈されることになった。この際、和田氏と筆者が同園の倉庫を調査したところ、それまでの調査では確認できなかった資料群が次々に発見され、その中には戦後直後の保護児童の実態を知る手掛かりとなる貴重な資料も複数含まれていた。現在、筆者は資料群の整理・調査に取り組み、その成果を順次展示等<sup>9</sup>で公表しているが、本稿ではこのうち特に筆者が注目した日本厚生団設立経緯に関する資料と、児童保護に関する資料について論じたいと考える。

## （2）研究史整理

戦争孤児研究の研究史については、2017年（平成29）段階での研究状況については本紀要13号ですでに記述したが、その後、2016年（平成28）に発足した「戦争孤児たちの戦後史研究会」の集団的研究成果によって大きな進展を遂げ、状況が大きく変化している。同会のメンバーに

よって刊行された『戦争孤児たちの戦後史』全3巻<sup>10</sup>は、戦争孤児研究の一つの到達点であり、制度史に始まり、各地の事例が集成された極めて優れた研究成果といえる。これらの研究では、戦争孤児の方々への聞き取り調査の他、彼らを保護した施設所蔵資料にも目が配られており、筆者の問題意識と合致する。また、2020年（令和2）12月より刊行が始まった『戦争孤児関係資料集成 第Ⅰ期 愛児の家史料<sup>11</sup>』は、東京都中野区の児童養護施設、愛児の家で保存されていた戦争孤児の児童記録簿、育成記録、感想文などが個人情報をもスキミングしたうえで収録されており、民間施設での保護の実態解明に極めて有益な資料であるといえる。以上のように、この数年の内に本分野の研究は飛躍的に進展しつつあり、各研究者の研究に敬意を払いつつ、本稿の研究成果もその一助となることを期待したい。

## 第1章 日本厚生団発足経緯

### （1）奥村宏の回想にみる横浜市戦災者同盟設立経緯

横浜の戦争孤児・「浮浪児」の保護に大きな役割を果たした日本厚生団の設立経緯と活動については、本紀要12、13号ですでに述べたが、設立者の一人である奥村宏（写真家名：泰宏、1914-1995）の回想記録が新たに発見されたため、本節で紹介したい。

奥村は横浜の老舗燃料商である株式会社奥村

4 企画展の概要は註3の他、横浜都市発展記念館編『奥村泰宏・常盤とよ子写真展－戦後横浜に生きる－』（企画展展示図録、横浜市ふるさと歴史館、2016年）を参照されたい。

5 拙稿「戦後横浜の戦争孤児を保護した民間児童養護施設」『横浜都市発展記念館紀要』（第13号、2017年）。

6 渡辺延志『神奈川の記録』（有隣堂、2018年）。

7 山崎洋子『女たちのアンダーグラウンド－戦後横浜の光と闇－』（亜紀書房、2019年）。

8 大西北呂志「占領期横浜の都市空間－研究史と記憶の継承－」小林宣之・玉田浩之編『占領期の都市空間を考える』（水声社、2020年）。

9 最近の展示については、横浜都市発展記念館編『ハマ発Newsletter』（第34号、2021年）を参照されたい。このほか、拙稿「焼け跡に手を差し伸べた人々の記憶－地域に残る戦後社会事業団体資料の価値－」『地方史研究協議会編『日本の歴史を原点から探る－地域資料との出会い－』（文学通信、2020年）でもボーイズホーム資料について紹介した。

10 2021年1月現在、浅井春夫・川満彰編『戦争孤児たちの戦後史』（①総論編、吉川弘文館、2020年）、平井美津子・本庄豊編『戦争孤児たちの戦後史』（②西日本編、吉川弘文館、2020年）、浅井春夫・水野喜代志編『戦争孤児たちの戦後史』（③東日本・満州編、吉川弘文館、2021年）。

11 浅井春夫、良香織、酒本知美 編集・解説『戦争孤児関係資料集成 第Ⅰ期 愛児の家史料』（第1回配本第1～3巻、不二出版、2020年）、今後刊行される予定の第2回配本2巻分を含めた全5巻。



商会の次男として生まれ、1935年（昭和10）に駿河台の文化学院を卒業後、家業に従事する。次節で紹介する日本厚生団設立時の文書に含まれている奥村の履歴書によれば、1939年（昭和14）には奥村商会の取締役に就任し、1941年（昭和16）に神奈川県コークス販売統制組合副会長、1943年（昭和18）に関東コークス配給商業組合神奈川県支部長、神奈川県商工経済会評議員に就任していたことが記されており、当時の主要な燃料の一つであるコークスの販売と統制に関わっていたことが読み取れる。奥村は敗戦後、戦災と燃料の統制によって奥村商会の活動が一時停止していた時期の1945年（昭和20）11月に横浜市戦災者同盟の副会長に就任し、社会事業に専念する。1988年（昭和63）に刊行された『季刊「横浜学」』第1号<sup>12</sup>には、敗戦前後における横浜市戦災者同盟の活動に関して回想した奥村の講演記録が掲載されており、その活動について詳細に知ることが出来る。この回想には、日本厚生団の前身組織である横浜市戦災者同盟結成の経緯について以下のように記されている。

いよいよ敗戦と言うことで、昭和十九年十月、神奈川県経済部長〔筆者註：商工課長の誤り〕を退職して民間人になった、福田忠光さんを中心にして、急遽集まりました。あの時代に、東条英機の唯一人の批判者として有名な石原莞爾中将が、戦争を早くやめて日本の再建をすべきだ、そのための組織として、ひそかに東亜連盟を結成して、福田さんはその神奈川県支部長を、引き受けていたのです。それがバレて、福田さんは役人を辞めることになったのです。〔中略〕  
〔筆者註：敗戦後〕福田忠光さんが考えたのは、横浜大空襲で災害した市民を援助する社

会事業の組織を作ろう。従来の社会事業の感覚ではない「戦災者市民が立上がって、自分たちの手で、自分たちの生活を守ろう」と言う、スローガンです。この組織を作成するために、東亜連盟の神奈川県支部の会員を全部動員しました。

この記述からは、横浜市戦災者同盟が戦時中に組織された東亜連盟の神奈川県支部のメンバーを中心に結成されたことがわかる。東亜連盟は1939年（昭和14）に設立された政治団体で、石原莞爾の「東洋文明圏」構想実現のために活動し、月刊機関誌『東亜連盟』を発行、国内会員約10万といわれた組織である<sup>13</sup>。日中戦争の早期収束と対米戦に反対したため、東条英機内閣に解散を強要され、1942年（昭和17）9月に東亜連盟同志会と改称し「昭和維新」を目指した。1945年（昭和20）3月に東亜連盟事務の淵上辰雄が石原莞爾に送った書簡には、福田忠光が石原が住む山形県鶴岡市を訪れたことに加え、横浜支部が結成予定であることが記されている<sup>14</sup>。福田の経歴は、前述の履歴書に依れば、1933年（昭和8）年に東北帝国大学を卒業後、内務省に入省し長崎県で勤務したのち、1937年（昭和12）に群馬県農政課長、1942年（昭和17）に神奈川県商工課長となり、1945年（昭和20）3月に沖縄県経済部長に就任した直後に休職し8月に依頼免職したとあり、奥村の回想とは異なるが、東亜連盟の支部結成時期と退職時期が合致するため、東亜連盟支部結成が退職の要因であったことが推測できる。この後も福田が神奈川県と横浜の政界に隠然たる力を有していたことが、神奈川県知事内山岩太郎の回想記に記されている<sup>15</sup>。東亜連盟は、敗戦後に連合国軍最高司令官総司令部によって解散を命じられ、

12 奥村泰宏「占領下の市民生活」『横浜学』（第1号、1988年）。

13 野村乙二朗編『東亜連盟期の石原莞爾資料』（同成社、2007年）。

14 同前書、376頁所収資料。

15 神奈川新聞社編・発行『反骨七十七年 内山岩太郎の人生』（1968年）246頁。



会員は再起を図っていたが、石原莞爾が1949年（昭和24）に死去したことから実質的に活動を停止する。しかし、奥村は「福田さんは石原東亜連盟の精神を、戦災者同盟にとり入れて生かしたのだと思います。」と述べていることから、横浜市戦災者同盟結成の思想的背景には、東亜連盟の理念が深く関係していたことがうかがえる。

福田は横浜市戦災者同盟の結成にあたり、奥村を副理事長に指名した。社会事業の経験のない奥村に要職を任せた理由について、福田は以下のように語ったと奥村は述べている。

横浜市戦災者同盟は、福田さんが理事長、私が副理事長で運営することとなりました。〔中略〕ずぶの素人に、社会事業などできるのかどうか。これに対して福田さんは、「これからの社会事業は、むしろ素人のなかからいい人がやるべきで、社会事業に玄人意識などおかしい」と、明快に分析していました。更に、今までは富豪の慈善事業だったが、それはそれでいいのだが、英国やアメリカで成功しているセツルメント方式で、社会事業をやるための営利事業を経営して行く。メンソレタームなどその成功した例であると説明しました。

この回想からは、福田が慈善事業型の社会事業ではなく、セツルメント方式による事業を実行しようという構想により、横浜市戦災者同盟を結成したことがわかる。同組織の取り組みが他の社会事業団体に比べ、多岐にわたり、かつ営利を目的とした事業も多い理由が推測できる。奥村はこの時期の活動について自身の生涯で最も多忙な時期であったと回想している。奥村は1949年（昭和24）に燃料の統制が解除されたことを契機として奥村商會が再興したために家業に戻ったが、日本厚生団の専務理事の活動は継続していたという。また、占領期の横浜市

内を精力的に撮影し、社会事業に参加した経験から社会の影の部分に光を当てた優れた作品を多く残したが、これらの写真資料群は2018年（平成30）に当館に寄贈され、現在筆者が整理を進めている。この中には戦争孤児関連の写真も複数含まれており、口絵4～5頁に掲載するほか、本稿の中で適宜紹介したい。

## （2）寄贈資料にみる日本厚生団の活動実態と特徴

奥村の回想以外に、横浜市戦災者同盟の活動および日本厚生団設立経緯を知る上で重要な資料が、子どもの園寄贈資料群に含まれていた、1947年（昭和22）3月4日付の神奈川県知事宛社団法人日本厚生団設立申請書類一式である。横浜市戦災者同盟は、同年より社団法人化して活動を本格化させるが、改正前民法第34条の規定では、公益法人は主務官庁の許可を得ることが義務付けられていたため、知事に許可を得るために作成された文書群であると考えられる。その内容は、①設立趣意書、②定款、③財産目録、④預金等の残高証明書、⑤代表者の委任状、⑥事業計画及収支予算書、⑦役員の就任承諾書、⑧設立関係者の履歴書、⑨社員名簿、⑩設立者会議議事録、⑪寄付承諾書の11点で構成されており、日本厚生団設立時点での最も正確な活動実態が記されている資料といえる。

本資料で最初に注目できるのは、設立趣意書である。本文書には設立意図を以下のように記している。

敗戦日本ノ騒然タル社会情勢ノ真只中ニ惨酷ニモ投ゲ出サレタル戦災者竝ニ海外引揚者ハ当然頼ルベキ何等ノ術モナク遂ニ相寄り相扶ケテ自主更生セムコトヲ期シ昭和貳拾年拾壹月貳拾日全横浜市戦災者同盟ヲ結成シタリ  
爾来約壹箇年餘嘗々トシテ相互扶助運動ヲ続ケ来リ遂ニ今日団員数実ニ六貳萬世帯ヲ超ヘ  
経営事業ノ管理又別記ノ如キ躍進振りヲ示シ

着々所期ノ目的ヲ達成シツ、アリ 此ノ人的  
竝ニ物的一大機構ヲシテ更ニ強固ノモノトシ  
テ廣ク全国ニ呼ビカケ団員ノ相互生活擁護ニ  
将又社会落伍者ノ救済事業ニ邁進シ以テ大規  
模且ツ積極的ナル社会事業団体トシテ道儀ト  
文化ノ香り高キ新日本建設ニ寄與セムコトヲ  
希ヒ横濱市戦災者同盟ノ持つ一切ノ組織施設  
ヲアゲテ左記ニ依リ社団法人日本厚生団ノ設  
立ヲ企畫セリ

この趣意書からは、戦災者、引揚者に対し、「相  
寄り相扶ケテ自主更生」することが横濱市戦災  
者同盟の設立趣旨であったことが読み取れる。  
先述の奥村の回想の通り、慈善的な救済活動で  
はなく、戦争被害者の自立を促す姿勢が現れた  
表現であるといえる。また、法人化にあたって  
の目的に、全国的な組織への拡大方針が記され  
ている事も興味深い。この構想は実現しなかつ  
たが、横濱市戦災者同盟の活動が一定の成功を  
得ていたことによる自信が本記述の背景にある  
のではないかと推測できる。

日本厚生団の活動が多岐にわたることは、す  
でに本紀要13号で記述したが、本文書には今後  
一年の事業計画書が含まれており、その活動の  
詳細について知ることが出来る。本文書による  
活動計画は以下のとおりである。

1. 生活必需諸物資の配分…戦災者及海外引揚  
者に対し日常生活必需品の共同購入及生産  
加工に依り廉価且つ良品の適正なる配分を  
為す。
2. 食堂の開設…団員に対し実費給食を為すた  
め食堂及喫茶部を開設し其の便を購す。
3. 文化運動と之に対する諸事業の経営…団員  
一同の智、徳、並に品位の錬磨向上を計ら  
ん為、図書館の開放、音楽会、観劇会、闊  
論会、娯楽機関等を開催各種文化機構の交  
流の促進を期す。
4. 住宅及アパートの管理…住宅、アパートの  
建設或は改修、管理に依り団員に貸与を為  
し居住の安定を計る。
5. 保健機関の開設…病院、診療所、浴場等を  
開設し団員其の他一般者に対し無料或は実  
費診療を為し又は健康相談に応じ体育の増  
進を計る。
6. 其の他の公益事業
  - ①浮浪者の収容指導…戦災に因る遺児、巷の  
浮浪者等を収容し是等の保健、育成、訓育  
を為し職業補導等善導を期せんとす。
  - ②職業補導並に授産場の開設…戦災に因る遺  
族或は引揚者並に失業者に対し各種工芸品  
の製作、ミシン加工等家内工業の指導其の  
他職業の斡旋に因り自活の道を講ぜしむ。
  - ③必需品の自己生産に対する指導並びに管理  
…必需品生産に対する合理的経営を以てす  
る市民の自主的工場の指導並に管理を為し  
失業対策の解決を期す。
  - ④要救済者に対する生活補助…戦災者並に同  
遺族或は引揚者等救済を要する家庭に対し  
生活の保全を期せん為補助金を附与せんと  
す。
  - ⑤小口事業資金の融資並に斡旋…団員中事業  
企画者に対し低利を以て資金の融資を計る  
と共に引揚者等に対し政府資金の貸出しの  
斡旋並に事業処理を為し団員の福利を計る  
ものとす。

本計画書には予算書が添付されており、各事  
業の規模も推測できる。これらの資料を見ると、  
計画書の1～5は事業収入が見込める事業であ  
り、特に1の生活必需物資販売と食堂部の売り  
上げが大きな割合を占めていることがわかる。  
本稿で取り上げる戦争孤児の保護は計画書の6  
-①がこれに該当するが、日本厚生団設立の時  
点では、孤児のみの保護施設ではなく、街の路  
上生活者の保護も意図されていたことが記され  
ている。6の公益事業は、「団員ノ醸出ニ依ル団  
費、所属官公庁ヨリノ補助金並ニ一般者ヨリノ  
寄附金、雑収入其ノ他前記事業ヨリノ剩餘金ヲ  
以テ左記公共事業ヲ企畫ス」と規定されており、

団費・補助金のほか、事業収入の余剰によって運営されることが明記されていることから、事業の成否が施設の運営に大きくかわる仕組みになっていたことが把握できる。

本団の活動の特徴を表す事業の一つが3の「文化運動と之に対する諸事業の経営」であるといえる。先述の奥村の回想では、1946年（昭和21）秋に神奈川新聞社と横浜市の共催で開催された演劇コンクールが横浜公園野外音楽堂で開催された際に、横浜市戦災者同盟が参加して戦災者による演劇が公演されたことが記されている。物資のみならず文化的復興も同団の設立目的であったことが興味深い。

本資料の情報の中でもう一点重要なのが、設立者の顔ぶれである。本資料には設立者として、福田忠光（理事長）、奥村 宏（専務理事）、泉 宏明（理事）、木下 茂（理事）、宇野 毅（理事）、成田善吉（常任監事）、平野恒子（監事）、の5名が記述されている。先述の福田と奥村以外の人物の経歴は、添付された履歴書に依れば、理事の泉は1934年（昭和9）より中区長者町で料理業を経営しており、木下は1932年（昭和7）より中区相生町で関内食堂経営、1945年（昭和20）よりキャバレーオリンピック及び外国人向け土産店販売経営、宇野は1930年（昭和5）より時事新報社、横浜貿易新報社、国民新聞社、読売新聞社に勤務したのち、1943年（昭和18）に横浜特殊工業株式会社取締役役に就任したと記されている。常任幹事の成田は1931年（昭和6）に横浜市中心卸売市場魚類卸売人となった後、1941年（昭和16）に神奈川県鮮魚地方配給連盟常務理事、1944年（昭和19）に神奈川県水産業界主事となった経歴が記載されている。彼らの経歴を見ると、社会事業に従事した経験を持つものではなく、食堂経営者やジャーナリストなどが同団の主要メンバーであったことがうかがえる。唯一の例外が監事の平野である。平野の経歴については本紀要12号で詳述したが、平野は神奈川県の戦後社会事業における最重要人物の一

人であり、彼女の知見が同団の社会事業の実行に関し、大きな支えとなっていたことが推測できる。平野自身も中区本牧元町で高風子供園という戦争孤児保護施設を運営していたが、施設の確保には福田が関わっていたことが明らかになっている。平野が東亜連盟のメンバーであったか否かは不明であるが、当時の社会事業運動家が相互に繋がりを持ちながら事業を進めていたことが想像できる。

同団の活動は、設立当初は当然ながら戦災者・引揚者保護に関する事業が主体となっていたが、復興が進むにつれてこれらの要素は縮小していった。しかし、5の保健施設については、ボーイズホームの施設内の診療所から始まり、1949年（昭和24）に同ホームの隣接地に厚生病院が建設され、1955年（昭和30）には長津田厚生病院（現長津田厚生総合病院）が建設されるなど、横浜地域における地域医療の要として発展を続けている。また、同団の保健事業を担った戸田 修は、1979年（昭和54）に緑区（現青葉区）に、それまで周辺地域に存在しなかった特別養護老人ホームであるひかり苑を創立する。このほか、戦争孤児の保護施設であるボーイズホームも1979年（昭和54）に茅ヶ崎市に移転して社会福祉法人福光会子どもの園として先進的な児童養護の取り組みを継続するなど、同団の事業は、時代のニーズに従って変化をしながらも現在まで受け継がれているといえよう。

## 第2章 ボーイズホーム設立経緯と 保護児童の実態

### （1）ボーイズホーム設立経緯

ボーイズホーム設立経緯については、本紀要13号で子どもの園作成の年表から紹介したが、先述の奥村の講演記録でそのいきさつについて以下のように述べられている。

雑炊食堂へ、浮浪児が残った雑炊をもらいにきました。食堂の責任者が、女親分の山本



高似女史で、面倒をみているうちに、だんだんその数がふえて行き、寝るところもないようなので、進駐軍のテントを払い下げてもらって、隣の空地に収容したのです。皆んなで、戦災孤児の収容施設を作ろうと言うことになりました。

まず土地です。私の亡父と親友だった、伊勢ビルの社長で市議員の上保慶三郎さんに相談しますと、日ノ出町の子神社の神主を知っているから頼んでみようと言うことになり、そこに決りました。

その頃は材木がないと建築をやってくれませんし、材木代金を只にするためにも、米軍の払い下げが必要です。日本郵船ビルの担当局をたずねて、陳情しました。通訳は、平賀さんという紅葉坂のキリスト教会の息子さんでした。この人も実に親切で、よく通訳してくれました。

平賀さんは親切なはずで、何日かたって、私に話があると言われるので、なにかと思ったら、戦災孤児の施設ができたら、園長を自分にやらせてくれないかと言うことでした。私はいい話だと思いましたが、一存では行かないので、相談してくると言って、福田さんに話しますと、「牧師の息子さんなら、クリスチャンでも本物だし、こっちから頼みたい位だ」の回答を得たので、これで日ノ出町のボーイズ・ホームもうまくいくと安堵しました。

冒頭に出てくる雑炊食堂とは、木下 茂が担当していた関内食堂のことで、戦災者に安価な食事を提供していた横浜市戦災者同盟の施設であるが、ここに孤児たちが多く来ることから、孤児たち専用のテントを設営することになったと記されている。横浜市戦災者同盟では、戦災者向けに米軍払い下げのテントを各地に設置していたが、関内食堂のあった馬車道の鎌倉ビルの隣接地にテントが建てられた。このテントを

撮影した写真が残されている（口絵4頁（1））。このテントはあくまで応急的なもので、恒久的な保護が出来ないため、施設建設のための材木取得に奔走する様子が記されているが、ここで大きな役割を果たしたのが、紅葉坂教会の平賀孟であり、平賀の通訳によって相模原の旧陸軍施設の材木が払い下げられることになった。この材木を利用して1946年（昭和21）12月に厚生同胞寮と名付けられた施設が設立されたことが、子どもの園作成の年表に記録されているが、前章で述べたように、日本厚生団設立時の事業計画では、戦争孤児のみではなく「巷の浮浪者等」も保護の対象としていたため、施設の名前もこの趣旨に準じたものになったと考えられる。また、施設の場所が伊勢ビル社長の市会議員、上保慶三郎の斡旋によって中区日ノ出町の子神社境内に決まったことは、他の資料に出ない情報である。通常、繁華街から離れた場所に立てられることが多い児童養護施設が、横浜最大の闇市が存在した野毛地域に近い場所に建てられた理由は、児童以外の戦災者保護も念頭に置いた施設であったことが関係しているのではないかと筆者は考える。

この施設の方向性が大きく変化した要因が、フラナガン神父の来訪である。奥村はこの時の様子について、「初代園長平賀孟氏の尽力で、アカデミー賞のメトロ映画、スペンサートレイシー『少年の町』のモデルで高名な、フラナガン牧師を、昭和二十二年五月二十八日に招聘して、その頃の大ニュースになったのです。」と、平賀の奔走によってこの訪問が実現したことを述べている。この時の様子について、1947年（昭和22）5月24日付『読売新聞』（地方版）には、「フ神父“少年の町”へ」と題された以下の記事が掲載されている。

フラナガン神父は廿三日午前十一時県庁を訪れ、内山知事はじめ県下の児童収容施設代表約四十名との懇談会に出席、午後は中区日ノ

出町のボーイズ・ホーム、保土ヶ谷区家庭学園、横浜駅前第一保護所を視察して帰郷した。

奥村の回想では、25日に神父が来訪したと記されているが、実際は23日であったことがわかる。また、神父の来訪時にはすでに厚生同胞寮ではなくボーイズホームと呼称していたことも同記事から把握できる。日本厚生団発足の3月から5月の間に、神父が来訪することを受けて、平賀の主導で施設の名称が変更され、児童専門の施設へと変化したことが推測できる。この日神父が訪れた施設のうち、家庭学園は戦前から活動続ける女子認可少年教護院であり、戦争孤児の保護施設としてはボーイズホームが唯一の保護施設である。県立や市立の保護施設ではなく、新興の民間施設に、当時日本中の注目を集めていた神父が来訪したことは、平賀がいかに熱意を込めて誘致を行ったかを示す事実であると考えられる。神父が来訪した際の光景を撮影した写真は、当館に寄贈された奥村の写真資料群の中に含まれており、神父が児童たちに親しげに語りかけている様子が写されている（口絵4頁（2））。

このように、ボーイズホーム設立に際し、主体的な役割を果たした平賀であるが、神父来訪後に渡米し、帰国後は立教大学体育会水泳部監督や財団法人日本水泳連盟の要職に就き、日本水泳界の発展に貢献することになり、ボーイズホームの運営に関わることはなかった。代わって2代園長に就任した竹下福寿がボーイズホームの児童保護・育成に大きく貢献することになる<sup>16</sup>。

## （2）ボーイズホーム保護児童の実態

ボーイズホームで保護されたのはどのような境遇の児童であったのか、その詳細を知る資料が寄贈資料に複数含まれていた。神奈川県児童

相談所（のち神奈川県中央児童相談所）作成の「児童調書」、ホーム作成の「児童身上調書」、「自昭・二三・一二 児童台帳」の3点である（口絵6頁（1））。この3点の資料の情報を一覧にしたのが【表】である。本節ではこの一覧から得られる情報から児童たちの実像について論じたい。

3点の資料のうち最も多くの情報が記載されているのが、「児童調書」で1947～49年（昭和22～24）に保護された75名の情報が記載されている。作成元の神奈川県児童相談所については、本紀要13号で記述したが、同所の歴史を略記すると、1946年（昭和21）9月に神奈川県が「主要地方浮浪児等保護要綱」により瀬戸ヶ谷町の遊郭であった家屋を買収して神奈川県児童相談所を創立。翌年横浜駅東口に第一保護所を増設し、瀬戸ヶ谷町の施設は第二保護所として施設入所を必要とする児童のみを収容。1948（昭和23）年の児童福祉法施行により第一保護所を神奈川県中央児童相談所とし、1950年（昭和25）3月には第二保護所を廃止するという経緯をたどる。本資料の書式を見ると、初期の作成元は瀬戸ヶ谷町の第二保護所であり、様々な用紙に情報が記載されている（口絵6頁（2））。神奈川県中央児童相談所開設後は、定型の書式（口絵6頁（3））が用いられており、年代と共に書式が整備されてゆく過程が把握できる。記述されている情報は、書式が整備された1948年（昭和23）以降の書式では、児童の氏名、生年月日、年齢、本籍地、現住所、保護者氏名、続柄、保護者住所、履歴（家庭環境・生活史・学歴）、性行（知能・性格及問題行為・その他の特性）、健康状態、指導上の要点、その他参考事項であり、それ以前の文書もおおむねこれらの情報が記載されている。このうち、履歴の家庭環境と生活史の項目が児童の境遇を知る点で重要な情報が含まれているため、【表】の「保護に至る経緯」欄にその要約をまとめた。

16 竹下福寿については、本紀要13号（註5）を参照されたい。

当時の児童相談所で行われた保護児童の調査の実態について、『神奈川県中央児童相談所誌』では以下のように記録している。

一時保護される児童の大部分は浮浪児、家出児である。その他に施設逃亡児もあるが、これは殆ど宿泊させずに施設に帰すことにしている。迷児、棄児等も保護されることもあるが少ない。

一時保護児童は保護係が受け取ると直ぐ身体消毒をする。次に身上調査をする。浮浪児、家出児は嘘をついて本当の事を聞き出すまでに、五六日もかかることがある。調査の結果家のある者は全部家へ帰し、施設から逃亡した者は施設へ帰す。どうしてもわからない者は、浮浪児現地処理の原則に従い施設へ収容する。この場合心理検査と身体検診をし、行動観察をして適当な施設を選択することは言を俟たない<sup>17</sup>。

この記述からは、児童相談所所員が数日をかけて調書を取り、施設に入所する児童を選別する様子がうかがえる。「狩り込み」によって保護された児童が虚偽の発言をして戦争孤児を装い、保護者の元に送還されることが頻繁にあった事も、同所に勤務していた大宮録郎の著書に記されており<sup>18</sup>、「児童調書」に記述された情報をそのまま鵜呑みにすることはできないが、当時の所員が、保護児童が虚偽の証言を行うことを前提として調書を取っていたことは、情報の信憑性に一定の担保を与えるものであると筆者は考える。

ボーイズホーム作成の「児童身上調書」、「自昭和・二三・一二 児童台帳」(口絵7頁(4~5))は一冊の簿冊に綴じられた文書で、その形式から後者の簿冊に前者の文書が後から付け加えら

れたものと推測できる。しかし、記されている情報は前者が古く、成年者の保護事例が記載されていることから、横浜市戦災者同盟時代か厚生同胞寮時代から作成されたものとする。後者は、児童相談所作成の「児童調書」の記述を基礎に1948年(昭和23)以降再度保護児童の調査をホームで行ったものと想像されるが、「児童調書」に記載のない児童の情報も含まれており、【表】ではこの3点の資料の情報を合同して106名分の情報を一覧にし、全体像を把握することを試みた。

【表】から把握できる情報のうち、筆者が最初に注目したのが、神奈川県外から来る児童が極めて多いことである。資料には、本籍地の情報が記載されている事例が多数みられるが、現住所の表記は極めて少なく、児童と家族が離散した時の住所を表してない事例が多い。そこで資料の記述から筆者が推測した情報を「離散時住所」欄に記載した。この情報をまとめると、東京都から来た児童が30名、大阪府7名、茨城県5名、広島県5名、福岡県5名、静岡県4名、愛知県4名、宮城県3名、「満州国」2名、栃木県2名、新潟県2名、群馬県2名、埼玉県2名、京都府2名、兵庫県2名、北海道1名、岩手県1名、富山県1名、奈良県1名、和歌山県1名、山口県1名、長崎県1名、鹿児島県1名と神奈川県の児童14名を大きく上回り、全国各地から児童が横浜に来ていたことがわかる。このうち特に注目できるのが、No2の児童のケースで、原資料の「既往歴」には以下のように記されている(口絵7頁(6))。

名古屋で罹災し両親を失って浮浪生活に入った。爾後今日迄 名古屋—東京—北海道—東京—門司—博多—下関—神戸—京都—東京と殆んど全国を股に掛けて流浪の旅をつづけ最近は東京と沼津の間を往復してゐたが、偶々

17 神奈川県中央児童相談所編・発行『神奈川県中央児童相談所誌』(1951年)、10頁。

18 大宮録郎『浮浪児の保護と指導』(中和書院、1948年)42~47頁。本書の存在は、墨田区立すみだ郷土文化資料館専門員の石橋星志氏にご教示をいただいた。



東京駅で動き始めた汽車から飛降りて頭部に負傷。未知の人の世話で平塚の済生会病院に入院したが、八月二十一日第二保護所に引継がれ、即日、追浜の国際病院に入院。十月十四日治癒。退院第二に収容。

大塚の都中央相談所、三宅坂の麴町保護所、板橋養育院、その他大阪、名古屋の施設等、これまで屢々施設に送られてゐるが、いつも長くて数日にして飛出してゐる。〔後略〕

名古屋の空襲で両親を喪った本児童の経歴は、数々の児童の調査を行った児童相談所職員の間でも話題になっていたことが、先述の大宮録郎の著書に記されている。この児童の他にもNo69、102の児童のように全国を浮浪するケースが見られ、No67の児童は施設を脱出後、沖縄に渡航し内地に送還されたことが記されている。これに及ばなくとも遠隔地より各地を周って横浜にたどり着いた事例を多く確認できる。また、施設からの逃亡経験を持つ児童の事例も非常に多く、多くの施設を渡り歩きながら各地を浮浪する児童の実態がうかがえる。

児童が浮浪生活に入った要因は多岐にわたり、資料では分類がなされていないため、資料の内容から推測した情報を【表】の「離散(浮浪)理由」にまとめた。ここでは戦災が要因となる児童が58名確認でき、半数以上の児童が戦争被害によって浮浪生活を強いられていたことが把握できる。戦災の内容は空襲による家族の死傷が最も多く、特に東京空襲や大阪空襲、名古屋空襲によって両親を失った児童のケースが多いことが確認できる。また、原爆被害によって孤児となった原爆孤児も複数存在することが注目できる (No12、89)。横浜市の児童も1945年(昭和20)5月29日の横浜大空襲の際に親を失ったケース (No29、33、91)が見られ、空襲被害が児童の主要な浮浪要因であったことが改めて認識される。空襲で本人のみが生き残る要因としては、学童疎開中であったことが挙げられ、No

10、22、24、28、39、42、48、53、63の児童の事例がこれに該当する。先行研究が指摘しているように、学童疎開が児童の命を守るために有効な手段であったものの、孤児となり浮浪の要因となっていたことも再確認できる。

空襲以外の戦争被害の事例としては、中国東北部の旧「満洲国」からの引揚げの際に両親を失った事例が2例 (No57、93) ある他、上海で父親が戦犯容疑で拘留された事例 (No5)、父が戦犯で収監され、継母が行方不明になった事例 (No66) など、様々な要因で児童が過酷な状況に追い込まれたことが把握できる。戦災が要因で孤児となった児童たちが浮浪生活に入る要因としては、罹災直後から浮浪するケースと、親戚などに預けられた後に家出をするケースに大別される。また、横浜の空襲で孤児となった児童は、市によって小田原の玉宝寺に保護されていたことを本紀要13号で述べたが、罹災直後から浮浪生活を送っていた事例が見られ (No29、33、91)、児童の証言が虚偽でなければ、これらの孤児たちの存在を行政が把握していなかったケースが存在していた可能性を指摘できる。

戦災以外の理由で浮浪生活に入る児童の要因は、家族との折り合いがつかず家出をする事例が多数確認できる。実の両親や片親を失った児童の例が多くみられ、中には自発的な家出ではなく養育放棄を宣言されて浮浪生活に入る児童の例もある (No13、16、72)。戦後混乱期の食料・物資難の時代に自分の子ども以外の児童を養育することは困難な時代であったことが想像でき、家出児童の中にも広義の戦争孤児といえる児童が存在するのではないかと筆者は考える。

多くの児童はなぜ、横浜を目指したのか。この疑問に一つの回答を示すのが、No51の児童の調書で、「横浜に来ればハウスボーイの口があるというので友達と来浜」と記されていることである。横浜で占領軍兵士の専属のボーイである「ハウスボーイ」の経験がある児童は、13名 (No31、33、34、36、37、43、51、53、60、73、

79、95、105) あり、当時米国統治下にあった沖縄を除き、最大の兵士が駐留していた横浜では、他地域に比べ比較的容易にハウスボーイになる機会があることが、多くの児童を惹きつけていたことがうかがえる。ハウスボーイ以外では主として横浜最大の闇市のあった野毛や横浜駅で靴磨きや「貰い」をしながら生活をする事例が散見される。

ボーイズホームはその名の通り男児専門の保護施設であり、女児の保護事例は一切見られない。また、【表】の一覧からは、年齢が比較的高い保護児童が多いことが把握できるが、これはボーイズホームが元来成年の保護も意図した施設であったことに加え、町の中心部に位置していることから、就職を求める児童に都合の良い立地であったことが関係しているのではないかと推測できる。このため、神奈川県に設置された他の施設に保護された児童と比較してボーイズホーム保護児童の経歴が特異であるか否かは検討の余地があるが、当時横浜に多数存在した児童の多くが、県外から各地を渡り歩きながらたどり着いた経緯を持ち、占領軍兵士の庇護を受けたり、闇市で職を得ながら浮浪生活を送っていた様子が想像できる。

当時の浮浪児童の状況を全国的に把握できる資料として、1948年（昭和23）5月に東京都の中央社会館で開催された全国児童福祉関係者会議の議事録<sup>19</sup>がある。本会議は各都道府県知事の推薦による児童福祉関係者が参加したもので、各地の浮浪児童の実態や保護の状況などが議事録から把握できる。本資料によれば、青森県・秋田県・茨城県・栃木県・千葉県・奈良県の代表が東京や大阪などの大都市からの児童の流入について言及している。これに対し、東京の担当者も「先刻よりのお話によると、東京から流れ込む者が多いとのことであるが、東京え流れ込むということもいえるのであります。」

として、都内の浮浪児童の40%が他県からの流入者であることを指摘しているため、児童たちが各地を流浪する事例は全国的に共通の問題であったことが把握できる。また、本会議において神奈川県の出発者は「私共は、東京より流れ込む浮浪児は必ずこの横浜において一掃すると言う覚悟で、現在駅には一名の浮浪者を見ない迄に至らしめたのであります。全日本の浮浪者をも、この横浜に於て一掃する自信をも有している次第です。」と述べてその保護実績を誇示しており、このような県の方針が、ボーイズホームの保護児童の出身地の多様さにも反映している可能性を指摘できるだろう。

### （3）『ひまわり』に見るボーイズホーム児童の境遇・心情

「児童調査」、「児童身上調査」、「自昭・二三・一二 児童台帳」に記載されている情報が貴重なものであることは言を俟たないが、本資料の情報は調査者の主観を通したものであり、児童の証言に虚偽が含まれている可能性も否定できない。これらの資料の情報を補完する資料が、寄贈資料群に含まれていた冊子『ひまわり』である（口絵8頁（1））。本資料については、本紀要13号でその詳細について述べているため概要を簡潔に記すと、当時ボーイズホームで設置されていた各種部活動の成果を月に一度冊子にまとめたもので、2代園長竹下福寿の発案で長年継続して児童たちの手によって編纂されていた。『ひまわり』所収資料の中で筆者が注目しているのが、児童が入所するまでのいきさつを記した作文が複数含まれていることで、【表】の情報と併せて検討することによって、より児童の浮浪生活時代の実態と心情に迫ることができる。本節では、『ひまわり』所収の児童の作文のうち、特に児童の状況が把握できる作文を紹介したい。

19「全国児童福祉関係者会議報告書」寺脇隆夫編・解説『母子・児童・老人福祉基本資料』（第3巻、柏書房、2016年）所収資料。

最初に紹介するのは、前節で言及した、占領軍兵士のハウスボーイとなった児童の作文である。このケースの作文は2点あり、このうち【表】No33の児童の作文を以下に引用する。

僕は横浜で家を焼かれて二ヶ月上野で暮した。毎日毎夜、それは淋しい日を送りました。楽しい日でもないではなかったけれど、それもその日だけで、あとはまたもとのくらい生活に帰るばかりでした。

八月になって、横浜で知り合ひになったMPに可愛がられハウス・ボーイになった。生れてはじめてアメリカの食物やいろんな品物を貰った。しかし僕は心の中で「一生このまゝでくらすなんて馬鹿げたことだ」と思った。でも月日は一日二日といつの間にやられた、二月ほどは夢の様に過ぎてしまった。

或る日、僕はMPのジョージさんからザープの運転を教えて貰った。はじめは庭の内で練習したが、後には通りへ出て運転したりした。とても愉快で今思ひだしても楽しい。

そうするうちに待ちに待ったクリスマスがやって来た。その夜、ジョージさんに連れられてキャバレーに行ったのでした。玄関のところで僕はびっくりした。色とりどりの電灯・金銀をちりばめたような天井の装飾・テープのひらがへる美しさ…それは童話にある西洋のお城みたいで僕は夢の国をさまよっているような気がしてならなかった。〔中略〕

二月の下旬になって、アメリカの本国から此の519部隊に本国帰還の命令が来た。もちろんジョージさんも帰ることになってしまひ、僕はガッカリしたが、仕様がなかった。そして帰る三日前、ジョージさんは僕を「ハワイ」へ連れてゆくようにアイケルバーガー中將に願ひ出たけれども許可にならず、やむを得なかった。別れる前の日、色んな洋服、品物、食料品など貰いましたが、胸が一杯でひとつも貰う気持がしなかった。

そしていよいよジョージさんが帰る日が来ました。僕は横浜迄見送りに行ったのです。ジョージさんは涙を流して握手をしました。私は形見に日本のお守を上げました。やがて船は港を出帆した。僕はいつまでもいつまでも見送って居た。そして涙がこぼれ落ちるのをどうすることも出来なかった。

あきらめて兵舎へ帰った私は、荷物を片付け、翌朝兵舎の長の人にお礼を言ってそこを出た。新しい浮浪の日が始まったのだ。

これからさき、どうして暮らしてゆこう。思案しながら、僕は野毛に行き、知っている屋台店で手伝をした。そこで一月位しているうち、第二保護所に収容された。その時靴磨もした。そのうち中里学園へ送られた。そこで五月迄居たが、僕は面白くなく出逃げ出しまひ、保護所の所長さんに怒られ、こんどはこのボーイズホームにやって来た。はじめここでもやはりトンゾラしたが、遂に落着いて今では真面目に勉強しようと張切っている。僕は今新制中学の二年生だ、新しく輝かしい日が僕を待っている。

（『ひまわり』第2集、1947年）

本作文は、寄贈資料に含まれている『ひまわり』の中で最も古い1947年（昭和22）11月に編纂された第2集に所収されているものである。当時の『ひまわり』は竹下園長によって清書されているため、児童自身の筆致で記されたものではなく、ある程度文章も整えられているのではないかと推測できるが、文章の内容は実際に体験したものでなくては表現できないものであると筆者は考える。例えば本児童を保護したMP（憲兵）の所属する519部隊は実在していた部隊であり、児童が虚偽でこのような具体的な部隊名を出すとは考えにくい。また、【表】No33の記録ともほぼ合致することから、ある程度の信憑性が担保される文章であると推測できる。本文書には、横浜大空襲で焼け出された後、



上野で浮浪生活を送っていた児童が、敗戦直後に横浜でMPの「ジョジーさん」と出会い、幸せな日々を送るが、兵士が帰還するために兵舎を出され、路上生活に戻るまでのいきさつが詳細に記されている。本文書からは、児童が兵士と親密になり、当時の日本人よりも良い環境で生活している様子が把握でき、ハウスボーイという職がなぜ全国の児童たちを惹きつけたのかをうかがうことが出来る。このような体験を作文にしたのはこの児童のみではなく、別の児童も以下のように記している（口絵8頁（2））。

#### 戦災後の想ひ出

僕は戦災で家が焼けてから両親の顔も見づに行方不明になりました。それからと言ふものはとても苦労をしました。終戦になって一週間位たつてある日の事であった。兵隊が来て僕の手をひっぱって兵舎に連れて行かれました。そして僕はその時英語は何も知らなかったのが僕は又苦労をしました。

そして、僕はへやの中に座りました。机の上の本があるのでその本を見ると英語の本でした。

その日からその本で勉強をしました。やっとの事ですこしばかりわかりました。二、三日するとその兵隊が洋服を持ってきてくれました。そして本を見ながら兵隊と話をしました。「あなたの」「名前は」と聞きました。すると兵隊は「ジェイムス」と言いました。すると兵隊の方で「アナタの名前は」と聞きました。僕はしりませんと言いました。その翌日から僕の事を「ヂミ」と呼んでいました。それから一ヶ月、二ヶ月、三ヶ月、四ヶ月、五ヶ月位すると「ジェイムス」は家をとりにかえると言ふので僕はその兵舎を出ました。その兵舎はMP兵舎であった。その兵舎は今の通り町にあります。そして僕は寝る所がないので桜木町駅で寝ましたそして朝早く第一におくられました。第一には八日位いました。

そして今ではボーイズホームに来て学校へ行つてゐます。なんて嬉しいかわかりません。

終

（『ひまわり』第12集、1948年）

本児童は【表】No91の児童であるが、横浜の空襲で罹災後から浮浪生活に入り、占領軍兵士に保護されたことを記している。No33の児童と同じく、この児童もMPの兵士に保護されているが、軍隊の治安と規律を司るMPが兵舎に児童を入れることを許可していることから、このような行為は当時の占領軍にとって一般的であったことが推測できる。児童は、兵士に保護されている間は平穏な生活が保障されていたが、兵士が異動するとその庇護を失い、浮浪生活に戻らざるを得なくなる事情もNo33の児童と同様であり、ハウスボーイとなること＝安住の地を得たわけではないことがわかる。

ハウスボーイではない児童がどのように生活していたのか。この点については、【表】No77の児童による以下の作文が当時の様子をよく描写している。

#### 不良の頃

僕は大阪から来て不良になった。

はじめ野毛に居たが、やがて反町に行き栄養食運びをやって居た。しかし栄養食を運ぶとき背中にそれがこぼれ落ちるのが不愉快で、そこも面白くなくなってとび出した。

それから靴磨きをやった。あまり面白かったので反町へはとうとう帰らなかった。野毛で鯨肉や魚など食べたり、映画をしょっちゅう見に行ったりして楽しい毎日だった。そして夜泊するところは九里ヶ浜旅館だったが、或る日第二保護所の中山先生が来て一緒に行こうといったのでついて行った。

第二にいったらアヒルや皆がはだかで起きて来たのでびっくりした。が、あくる朝はもう皆と仲よしになってしまった。僕はそのとき

反町からずっと着ていたマントを皆に破かれてしまい、口惜しくて仕様がなかったが我慢した。

それから幾日かして春光園に送られた。そこはあまり面白くないので四回も逃げた。そして又第二へ行き、とうとうボーイズホームにやって来たのである。

（『ひまわり』第12集、1948年）

ここでは横浜市神奈川区反町で栄養食運びをして生計をたてていたことが記されている。栄養食とは、闇市などで販売されていた占領軍兵士の出す残飯のことであると考えられる。当時は町で浮浪する児童を使役する大人が複数存在しており、この児童も当初そのような仕事についていたが、のちに飛出して野毛で靴磨きをしていたことが記述されている。ここでは、食物や映画などを楽しむことが出来たとあり、野毛が児童たちを惹きつけた理由がうかがえる。靴磨きを生業としていた児童の例は【表】からも多く把握でき、寄贈資料の中には当時児童が使用していた靴磨き台が含まれている。靴磨きが合法で比較的割の良い仕事であったことがうかがえる。このような生活に慣れた児童にとって、施設の生活は「面白くない」ものであったらしく、幾度も施設を脱出したことも記述されている。路上で生活する術を得た児童の保護がいかに困難であったのかを想像できる資料であるといえよう。

この児童以外に、浮浪生活の実態を詳細に記しているのが、以下の【表】№1の児童の作文である。

それから

あの頃僕は大阪の親元に居て工業学校に通って居た。一月ほど学校を怠けた為、校長先生や両親に叱られた上、受持ちの先生が更に僕を退学処分にした。僕は両親に合はせる顔もなく遂に家をとび出してしまったが、それは

昨年の六月四日のことであった。

家出する時、多少の金を持ち出しはしたがそれもぢきになくなり、後はタカより他はなかった。しかし内気な自分は人からタカることは出来ず、悪いことゝは知りながら、悪の道におちこんでしまったのである。

はじめ、名古屋駅で旅行者のリュックやトラंकを搔っぱらって闇市で売って金に替へ、外食券を買ひこんだ上、食堂で自由に食事をし、かくて毎日後暗いことばかりして暮らして居た。ねぐらは駅の片すみに置き、昼間は映画館へ行ったりなどして遊んで居た。

そのうち東京と云ふ所へ一ぺん行って見度くなり、旅費を稼いで上京した。そして東京駅でブラブラしていたが、とある汽車に乗込み、下車したところがこの横浜駅である。その時待合室に、今野毛で靴磨きしているピッコさんが居た。非常にシケて居たので僕は持っていた金で駅弁を買って食べさせてやったりした。

その晩、二人は今後どんなことがあっても離れないで暮らしてゆくことを誓ひました。その翌日、どうして暮らしてゆくかを相談して新聞売をやることに決めた。一枚二十五銭の新聞を五十銭に売ってその儲けで野毛の闇市で食事をするのである。勿論こんな商売はあまり良いことゝは思わなかったが、その場合これより以外は生きる工夫が無かったのだ。又此の時、僕は以前やって居たような悪事だけは良心がとがめてキツパリとやめることにし、それ以来人の物に手を掛ける事はよしした。

新聞売はなか／＼いい商売になる。一日の売上は朝夕合せて五百円位でその半分は利益である。毎日野毛の屋台に飯食ひにゆくうち、その店の主人と知り合ひになった。そして主人にその店の手伝いを頼まれ、僕は引きうけることにした。衣・食・住はちゃんとしてくれた上、月給の二百円をも呉れた。そこでの僕の仕事は飴売であるが、此の家はもうひとつ

の店で残飯を売って居るのでなかへ忙しく、それを手伝ったりしているうちにその家の人と慣れてすっかり親しくなっていた。こうしてとうとう五ヶ月位此の家で働いて居た。

或る日ビッコさんがやって来て靴磨をやるからお前も一緒にやらないかと誘った。僕は少し考へた後、以前の約束を思ひ出し、もう一度一緒に働いて靴磨することに決めた。今考へると靴磨きなどに転向しないで、そのまゝで居れば良かったのだが…。

その頃、ホームに居る〇〇君〔筆者註：伏字は筆者によるもの〕も靴磨きをしていた。しかし彼はちゃんと家から通っていたのである、がしばらくすると彼も亦僕等と同じ浮浪の仲間に入った。それ以来切っても切れぬ仲となり、久里浜の旅館に泊まって依然靴磨をやっていた。二月位して或る日、旅館へ帰ったらヒゲのモサモサした刑事のような人が居て、連行されて第二保護所に入ったのであった。この人が所長の中山先生であることは後でわかった。ここでもやはり靴磨やっていたのであるが、大宮先生のおさとしによって少年時代にこそ立派に勉強して自分を磨き上げねばならぬことを反省し、七月末、此のボーイズホームの一員に入るようになった。

思へば悪夢のようにも、また変化の激しい漂泊の歳月であった、僕は再起して立派な人間になる為、老松中に通はしてもらって居る。

（『ひまわり』第2集、1947年）

本児童は当初、置き引きなど、犯罪行為で日銭を稼いでいたことが記されている。その後、横浜に来て仲間と共に、犯罪行為をやめ新聞売りに転向したと記述しているが、新聞売りが割のいい仕事であったことがわかる。この後、野毛の屋台で働くが仲間の誘いで靴磨きをすることになり、保護されたとある。本児童は戦争孤児ではなく、家出をして浮浪生活に

入った児童であるが、浮浪生活を送る当時の児童はおおむねこのような生活を送っていたことが想像できる。仲間意識が強く、できる限り犯罪行為を避けたいという意識がある児童も存在していたことがうかがえる。

遠方で孤児となった児童がいかなる経緯で横浜に来たのかを把握できるのが、以下の【表】No.89の児童の作文である。

#### 私たちの一日

僕は広島で戦災に合ったのでその年の九月末佐世保に行った。

そして他の小父さんに拾はれて二年間程佐世保で暮らした。毎日たいして不自由な事もなく過してゐた。日曜日等は毎週きまって映画を見に行ったりした。こをいう様に僕は幸福に暮してゐたのだが、ちょっとした事でそこを出て大阪に行った。そして昨年の七月に大阪の学院え入った。

この学院で八ヶ月過したが、僕は生まれてこんなつらい、そして暗い思ひをした事は始めてだった。第一窓という窓は全部鉄柵がしてあったし中に居る院生が終始逃路を探していた。まるで牢屋に入れられた様な感じがした。僕はもうがまんが出来なくなって今年の四月に逃脱した。そして東京から横浜にやって来た。〔後略〕

（『ひまわり』第14集、1948年）

【表】No.89の記述によれば、本児童は広島市において原爆で両親を亡くした原爆孤児で、罹災後兵隊に拾われ、その後佐世保で鉄工所の職員に保護された経歴を持つ。作文では「ちょっとの事」と記されているが、調書には金銭やライターを窃盗したことからそこを出たことが記載されている。その後大阪の施設に入るも脱走し、横浜に来た経緯が記されている。安住の地を得られず、施設にもなじみず浮浪を続ける児童の姿が想像できる。



『ひまわり』の作文の中には、児童の心情に触れることが出来る資料も含まれている。以下の作文は、本節冒頭で紹介した【表】No.33の児童の作文である。

冬を迎えて

寒い ― 冬が愈々私達の所へ訪れて来た。今年の冬は平年に比べて非常に早く訪れて来たと言う中央气象台からの発表であった。〔中略〕寒さが加はるにつれて僕は焼跡でバラックに住む人々や海外から引揚げて寝る所のない人の事を考えると僕達が普通の家に住んでいるのは何だかその人達に対して申し訳ない気持ちになる。地下道や公園に住む人には凍死する的多いだろう。比の人達を一日も早く収容して更生させる施設をもっと ― 作って互いに助け合ってこの苦しい時を忍耐し民主新日本を建設し世界の愛を雄飛するのを願うのではないか。

（『ひまわり』第16集、1949年）

この作文からは、冬をバラックや路上で過ごすことを余儀なくされている戦災者や引揚げ者を気遣う児童の心情が読み取れる。自らも空襲直後から浮浪生活を体験し、辛酸を舐めた経験がこのような視点を持つにいたる要因であると推測できる。このほかにも『ひまわり』の中には亡くした親を思う心情や自身の空襲体験を綴った作文が複数含まれており、今後、整理・分析することで児童の心情により迫りたいと考える。

## おわりに

本稿では、社会福祉法人福光会子どもの園より寄贈を受けた資料をもとに、日本厚生団の成立過程および同団経営のボーイズホーム保護児童の実態について論じてきた。同団は慈善事業

型の社会事業団体ではなく、セツルメント方式での経営を模索しており、社会事業の専門家がほとんど不在の人員で多岐にわたる事業を展開していたことが明らかになった。

また、ボーイズホーム関係資料群には、公的な統計資料や児童相談所の記録物のみでは把握しきれない戦争孤児・「浮浪児」の実態と保護の詳細を知るための極めて貴重な情報が含まれており、改めて戦後直後より活動を行った民間社会事業団体資料の価値を再認識できた。特に「児童調書」、「児童身上調書」、「自昭二三・一二 児童台帳」の3点は、児童たちの境遇を具体的に知る手がかりになる資料であり、全国各地から様々な要因で児童たちが横浜に集まる様子が把握できた。今後も『ひまわり』などの資料との比較からより深い分析を継続したいと考える。今回は紙幅の都合で取り上げられなかったが、ボーイズホームに保護された児童たちがどのように養育されたのかについて詳細に記された文書群も寄贈資料に含まれており、順次調査成果を発表する予定である。

また、同様の資料は、ボーイズホームのみではなく、他の施設でも所蔵されている。なかでも横浜市内では「国際孤児（混血孤児）」を保護した聖母愛児園が最も多く神奈川県中央児童相談所作成の調書を保存しており、その一部を本紀要12号で紹介したが、現在も施設の協力を得て調査を進めているところである。今後は市内のみではなく県内の施設にも目を向け、資料の発掘に努めてゆきたい。

最後に、本稿の執筆にあたり、社会福祉法人福光会子どもの園園長、和田直熙氏と社会福祉法人みどり福祉会理事長の戸田堯子氏、奥村泰宏写真コレクションをご寄贈いただいた栗林阿裕子氏に多大なご協力を賜りました。末尾ながら厚くお礼申し上げます。

【表】 ボーイズホーム保護児童調書一覧

| No. | 本籍          | 離散時<br>住所 | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年        | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                             | 家 族                                                         | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                      | 出<br>典 |
|-----|-------------|-----------|--------------|------------|--------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1   | 大阪府<br>大阪市  | 大阪府       | 家出           | 昭和7年       | 16     | (昭和22年)<br>7月21日                          | 両親、兄姉 (3人)<br>健在                                            | 大阪の土建組の親分の家に住み込んでいたが、不義理をしたため昭和21年に家出。上京して東京駅で新聞売りをした後、10月に来横し野毛闇市の館屋になるが、昭和22年3月にあまりこき使われるため辞めて野毛の靴磨きとなる。4月久里浜会館より第二保護所に収容。春光園に送ったが5月に同園の工場がいやになって第二保護所に戻る。今まで偽名で通していた。      | 1      |
|     |             |           |              | 昭和7年       | 18     | 昭和22年<br>7月2日                             | 両親健在、兄が両親を養っている、姉3人のうち2人は嫁いでいる                              | 家が非常に貧しかったが頭が良いというので学校へ上がったが経済的事情で中退。21年6月家出。上京後、東京駅で新聞売り、10月末来浜野毛闇市館屋の手伝い、靴磨きなど。22年春光園5月26日同園を飛び出す。24年2月17日本人の意思及び家庭より連絡あり寮長付き添い帰宅せしむ。欄外に朱書「帰宅」記載あり。                         | 3      |
| 2   | 愛知県<br>名古屋市 | 愛知県       | 戦災           | 不詳         | 10     | (昭和22年)<br>10月16日                         | 両親：戦災死、<br>兄：戦死                                             | 名古屋の空襲で両親を失い浮浪生活に入る。名古屋－東京－北海道－東京－門司－博多－下関－神戸－京都－東京と全国を廻り、最近では東京・沼津間を往復していたが、東京駅で列車から飛び降りて頭部を負傷し未知の人の世話で入院・治療後第二保護所に収容。各地の施設で保護されるが、短期間で脱走している。                               | 1      |
|     |             |           |              | 昭和<br>13年? | 12     | 昭和22年<br>10月20日<br>昭和24年<br>12月30日<br>再入寮 | 両親：戦災死、兄：<br>航空兵で死亡                                         | 名古屋で罹災、両親と死別後浮浪生活に入る。名古屋-東京-北海道-東京-門司-博多-下関-神戸-京都-東京と殆ど全国を浮浪す。東京駅にて汽車より飛び降り頭部負傷。(22年8月21日～10月24日) 追浜国際病院へ入院。治療退院後、第二保護所収容。欄外に「逃亡」「再入寮」記載あり。                                   | 3      |
| 3   | 北海道<br>以下不詳 | 福岡県       | 戦災           | 昭和11年      | 13     | (昭和22年)<br>2月3日                           | 父：福岡市博多別府町で戦災死、母：幼いときに死別、継母：父と共に戦災死、兄：家出して行方不明、異母兄弟：空襲で行方不明 | 北海道で生まれ各地を転々とし、戦災で両親を失ってから約一年ほど博多の駅で暮らし、昭和21年夏来横。それより今日まで野毛南京町等に浮浪、ハマの浮浪児の中でも古顔の方となっている。21年10月には横須賀春光園 (3日ほど)、22年3月より国府実習学校に居たことがある。                                          | 1      |
| 4   | 東京都<br>千代田区 | 東京都       | (戦災)         | 昭和7年       | 17     | 昭和23年<br>6月10日                            | 父：フィリピンで戦死、母：本人が5歳の時死亡                                      | 昭和20年5月29日の空襲で家を焼かれ目黒の工場の宿舍に父と二人で住んでいたが、12月に工場が解散となったため、浮浪生活に入り来浜。船のボーイを半年位してから野毛で入夫をしていた。22年10月神奈川小学校的進駐軍宿舍の歩哨に捕まり、11月川越少年刑務所へ、翌年5月に所し刑務所よりの紹介で保護。父の死亡理由に矛盾があるが、頑として主張を曲げない。 | 1      |
| 5   | 東京都<br>新宿区  | 上海        | (戦災)         | 昭和7年       | 17     | 昭和23年<br>6月10日                            | 父：戦犯容疑者で上海に抑留、母：本人が生まれるときにお産で死亡                             | 上海の陸軍宿舍に住んでいたが、終戦後まもなく父が逮捕されたので協会に保護された。昭和21年5月に引き揚げ、叔父を頼って名古屋に來たが不明であったので、熱田区の旅館に宿泊して進駐軍の入夫となるが、労働基準法が施行されたために働けなくなり、東亜同文書院の先生を頼って来横したが不明であったので中区役所に保護される。                   | 1      |
| 6   | 栃木県<br>宇都宮市 | 栃木県       | 戦災           | 昭和6年       | 18     | 昭和23年<br>6月18日                            | 父：昭和20年7月12日の空襲で行方不明、母、本人が9歳の時に死亡、弟：父と共に行方不明                | 罹災後、学友の家に寄宿していたが、昭和23年2月友人の父と意見が合わなくなり同家を出て上京。上野、荒川、大塚と東京の一時保護所に出たり入ったりしていた。5月に大塚の都相談所で問題を起こし来横。保護される。                                                                        | 1      |
| 7   | 大阪府<br>大阪市  | 大阪府       | 戦災           | 昭和7年       | 17     | 昭和23年<br>6月22日                            | 父：戦死、母：戦災死                                                  | 罹災後、大阪梅田駅に放浪中、〇〇興業部に入れられ、軽業師を一年させられたが、逃亡し、天王寺周辺に浮浪。駒川ホームに収容され2年いたが、同所が戦災孤児の収容をやめるため大阪の保護所にいたが、偶々いた横浜の子の誘いで本年6月来浜。モク拾いで生計を立てる。11日持ち込みで収容。                                      | 1      |

| No. | 本籍                  | 離散時<br>住所   | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日   | 家 族                                            | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                 | 出<br>典 |
|-----|---------------------|-------------|--------------|-------|--------|-----------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 8   | 神奈川県<br>横浜市<br>中区   | 兵庫県         | (両親<br>の死)   | 昭和6年  | 18     | 昭和23年<br>8月25日  | 父：本人4歳の時<br>に死亡、母：本人<br>3歳の時に死亡                | 父母死亡後、神戸市の親戚の家に預られるが同家も家<br>族が死亡し、別の家に預けられる。学徒動員で工場へ<br>行き、21年12月頃悪い友人と付き合い、ごまかされて同<br>僚と横浜に来て高島税関キチンボーイとなる。電車で<br>神戸に帰ろうとしていたところ加賀町署に送られる。                                                                                                              | 1      |
| 9   | 山口県<br>下松市          | (山口県)       | 家出           | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>7月4日   | 父：溶接工、実母：<br>本人8才の時死亡、<br>継母：43才               | 高小後、旋盤工などをしてしたが、父がよく叱るので<br>本年3月ころ家出。上京し上野に一月くらいいたが、<br>横浜に来て進駐軍人夫などをする。東神奈川駅前マー<br>ケットで保護される。                                                                                                                                                           | 1      |
| 10  | 不詳                  | (大阪府)       | 戦災           | 昭和9年  | 15     | 昭和23年<br>9月4日   | 両親、妹：昭和20<br>年10月大阪で戦災<br>に遭い行方不明              | 本人集団疎開で疎開中に家が戦災に遭い家族が行方不<br>明となる。疎開より帰り大阪で「モラヒ」をしてきた。<br>昭和21年京都伏見寮に入り、月縄寮に移されたが、23<br>年3月同寮を出奔、4月岡山の少年の園へ入ったが、同<br>所を出てきたもの。                                                                                                                            | 1      |
| 11  | 群馬県<br>勢多郡<br>木瀬村   | 群馬県         | 家出           | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>9月21日  | 父：本人が11歳の<br>時病死、母：本人<br>が12歳の時に保土<br>ヶ谷へ嫁に行った | 家出後、上野駅から横浜へ出てきて煙草拾いをしてき<br>た。昨年10月より前橋市で肉屋の小僧として勤務した<br>がボヤを出し、勢多郡の叔父の所へ帰る。その後、保<br>土ヶ谷の母のところに行ったが10日ばかりで出された。                                                                                                                                          | 1      |
| 12  | 広島県<br>呉市           | 広島県         | 戦災           | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>9月8日   | 両親、弟3人原爆<br>で死亡                                | 両親は広島市に居住し三菱造船に勤務中、原子爆弾爆<br>死。本人は学徒動員で呉に在りするため、難を逃れ、以<br>後駅付近で浮浪、占領軍の宿舎内でハウスボーイを務<br>める、今年5月13日迄つとめ、占領軍帰還のため失職。<br>6月上京、上野で所持品を売り食いしていた。8月26日<br>横浜に来て刑事に連れられ本所に来所。                                                                                      | 1      |
| 13  | 埼玉県<br>川越市          | 埼玉県         | 養育<br>放棄     | 昭和8年  | 16     | 昭和23年<br>10月12日 | 父：死亡、義父：<br>鮮肉商、義母：昭<br>和21年頃死亡                | 3才の時に現在の義父に託され、義母に育てられたが、<br>義母が21年頃に死亡し、後妻が家に入ってから家を出<br>るように云われ、横浜のボーイズホームに入る。                                                                                                                                                                         | 1      |
| 14  |                     | 茨城県         | 家出           | 昭和8年  | 16     | 昭和23年<br>10月12日 | 父：22年5月死亡、<br>母：小学校1年の<br>時に死亡、継母、<br>妹、弟あり。   | 実母は本人小学校1年の時死亡し、京橋にて戦災に遭<br>う。茨城に疎開してきたが継母だけとなり家に居づら<br>く7月25日家出して上京。モラヒをしてきた。                                                                                                                                                                           | 1      |
| 15  | 福岡県<br>鞍手郡<br>宮田町   | 広島県         | 戦災           | 昭和8年  | 16     | 昭和23年<br>10月18日 | 父：6年前に死亡、<br>母：本人2歳の時<br>死亡、姉2人、兄2<br>人あり      | 父死亡後、姉の嫁先（広島県福山）に行ったが戦災<br>に遭い、行方不明になる。それから浮浪生活が始まり、<br>大阪で学園に入り、2週間くらいで逃亡。名古屋、大<br>阪を回り新聞売りしながらブラブラしていた。小倉<br>の双葉学園に入るが、逃げてボーイズホームへ友達と<br>来たもの。                                                                                                         | 1      |
| 16  | 宮城県<br>仙台市          | 宮城県         | 養育<br>放棄     | 昭和11年 | 13     | 昭和23年<br>11月10日 | 父：フィリピンで<br>戦死、母：22年6月<br>ジフテリアで死亡、<br>弟：死亡    | 仙台市の朝鮮人飯場の空いている所を借りて住んでい<br>た。母親は進駐軍の雑役婦をしていたが、昨年6月死亡。<br>弟は母死亡後、馬車に突き当たって死亡。その後、祖<br>父の兄方に身を寄せていたが、世話を見てくれなくな<br>り、7月に家出。上野で2～3日浮浪後大塚保護所に入っ<br>たが逃亡して東京を浮浪していた。その後、横浜に来て<br>タバコ拾いをしていた。                                                                 | 1      |
| 17  | 奈良県<br>奈良市<br>(現住所) | 奈良県         | 家出           | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>9月13日  | 父：21年4月死亡、<br>母：17年7月死亡、<br>兄、弟あり              | 昭和17年に母が死亡したため、弟とともに父に養われ<br>ていた。昭和21年3月兄が中国より帰還した直後に父<br>が死亡したため、2人は兄とともに暮らしていたが、3<br>か月余りで大阪に出奔し6日目に白城学園に収容され<br>た。本年8月までいたが脱走して名古屋市駅頭にて発<br>見され、18日愛知学園へ収容された。29日愛知学園を<br>脱走。電車で横浜駅まで来て2夜過ごし、9月5日再度<br>電車に乗るが衣笠駅で降ろされ、駅にいたところを不<br>審尋問にあい、横須賀署に送致された。 | 1      |
| 18  | 福岡県<br>鞍手郡<br>宮田町   | 神奈川県<br>川崎市 | 戦災           | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>12月22日 | 父：7歳の時に死<br>亡、母：13歳の時<br>に死亡                   | 7歳の時父が病死。母の実家である川崎市に来て20年2<br>月頃母が病死し、4月に戦災に遭って伯父伯母祖母等<br>と別れ一家離散。叔父の知人の茅ヶ崎市の家に行き、<br>工場に通勤して横浜へ来て横浜駅近くのテントで世話<br>になり、社会館で世話になり、清掃の仕事をしていた。<br>今年の12月に間違いを起こして横浜拘置所に収容され<br>て水戸刑務所に服役し11月仮出所して本所へ来た。                                                     | 1      |



| No. | 本籍                  | 離散時<br>住所     | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日   | 家 族                                                        | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                          | 出<br>典 |
|-----|---------------------|---------------|--------------|-------|--------|-----------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 19  | 茨城県<br>多賀郡<br>松岡町   | 茨城県           | 家出           | 昭和8年  | 16     | 昭和23年<br>12月21日 | 父:自動車運転手、<br>母:あまり知らない、<br>継母、妹あり                          | 昭和22年10月継母が叱るので家出、巢鴨警察署を頼ってきた。警察より養育院に行き、昼間は印刷して夜は小石川工業の印刷課に通学。養育院には子供がいることが出来なかったのが大阪へ行きたいといったが、聞き入れられなかったため23年5月逃亡。第一保護所へ。その後成田聖十字学園にいたが11月上旬逃亡。第一保護所へ帰るが帰るように云われ、東京で浮浪してきた。    | 1      |
| 20  | 神奈川県<br>横浜市         | (神奈川県<br>横浜市) | 家出           | 昭和9年  | 16     | 昭和24年<br>2月10日  | 父、母:昭和16年<br>病死、姉あり                                        | 保土ヶ谷に実家があった。家族4人で暮らしていたが昭和16年父と母が死亡。姉は千葉県に奉公に行き、本人は某家に預けられ中学に通っていたが子供と喧嘩して家出。浮浪生活を始めた。東京方面。当所は今回初めて。                                                                              | 1      |
|     | 神奈川県<br>横浜市         |               |              | 昭和9年  | 16     | 昭和24年<br>2月11日  | 両親ともに病死、<br>姉は親戚に奉公に<br>行っている                              | 保土ヶ谷にて両親姉と暮らしていたが、昭和16年6月肺結核にて父死亡、同年8月腸チフスにて母死亡後姉と共に千葉の親戚に奉公に行く。本人は某氏に預けられ中学に通っていたが同家の子どもと喧嘩して家出。浮浪生活に入る。<br>2月15日頃某氏の短靴を盗み逃亡するも発見されて短靴を置き捨てて野毛にて行方不明。<br>欄外に朱書「逃亡」記載あり。          | 3      |
| 21  | 愛知県<br>名古屋市         | 東京都           | (職場の<br>不和)  | 昭和6年  |        |                 | 父:消息不明、母:<br>死亡                                            | 国民学校5年の時に兄と共に本郷区花町の医療機械店に奉公したが、3月9日に罹災してからまたしばらく同店にいたが、22年3月に同店を出て兄と浮浪生活を始めた。昨年4月春光園に入るがいろいろの問題のために同園を出て来た。                                                                       | 1      |
| 22  | 東京都<br>深川区          | 東京都           | 戦災           | 昭和8年  | 16     |                 | 父、妹離散                                                      | 20年3月中は高田の祖母宅へ疎開。                                                                                                                                                                 | 1      |
| 23  | 神奈川県<br>横浜市<br>鶴見区  | (神奈川県<br>横浜市) | 戦災           | 昭和7年  | 17     |                 | 父:昭和18年病死、<br>母:戦災死、弟、<br>妹2人一家離散                          |                                                                                                                                                                                   | 1      |
| 24  | 離散地:<br>東京都<br>深川区  | 東京都           | 戦災           | 昭和8年  | 15     |                 | 両親、姉人空襲に<br>て死亡、姉1人不<br>明、兄戦死                              | 山梨県北鶴郡上ノ原町の旅館に学童疎開中3月の空襲で離散。終戦後、米軍に拾われ、空き缶整理をやりたる事あるも多くは靴磨き、現在は上野、東京にてタバコ拾い。施設に入りたる事なし。就学希望。                                                                                      | 1      |
| 25  | 群馬県<br>勢多郡<br>黒保根村  | 群馬県           | 家出           | 昭和10年 | 14     |                 | 両親、弟あり                                                     | 黒保根村に住んでいたが、3年前に父母が喧嘩して母が家出。父は故郷に帰って死んだ。21年5月頃家から金を持ち出し、高崎で遊び、母の実家に行ったが一晩で飛び出した。6月上京し上野にいたが狩り込みで養育院に入れられ宮城県女川のそばの島に貰われたが、津波にやられ石巻に移るがつまらないので再度上京。上野に行ったが寝るところがなく、桜木町に来て狩り込みで捕まった。 | 1      |
| 26  | 東京都<br>本郷区          | (東京都)         | 戦災           | 昭和6年  | 18     |                 | 父:昭和20年5月<br>29日戦災で行方不<br>明、母:14歳の時<br>病死、姉:8年前<br>病死、兄:病死 | 20年5月29日の戦災で焼かれ、しばらく学校で団体生活をしていたが、以前買い出しの時知り合いになった水戸の農家に行ったところ置いてくれた。ところが夫婦喧嘩の問題が起きたので昭和23年4月出る。横浜市中区に同姓の親類があるのを探すため来浜。交番で尋ねるも分からず第一保護所を教わり第一に単独入所。28日当所に入所する。                    | 1      |
| 27  | 北海道<br>室蘭市          | (宮城県)         | 戦災           | 昭和10年 | 14     |                 | 父:戦死、母:仙台<br>にて機銃掃射にて<br>死亡、弟:仙台駅<br>で浮浪中に別れた              | 両親を失ってから仙台駅で「タカリ」専門。21年の春に東京が良いと聞いて上京。上野地下道にいた(貰い、タカリ)。上野保護所-養育院-大塚中央相談所-長野恵愛園-愛児の家                                                                                               | 1      |
| 28  | 東京都<br>蒲田区          | (東京都)         | 戦災           | 昭和9年  | 15     |                 | 父、母:戦災で離<br>散。兄:予科練フィ<br>リピン                               | 富山県魚津真成寺町に学童疎開中昭和20年5月29日空襲にて離散。第一、第二を経て中里→治生学園                                                                                                                                   | 1      |
| 29  | 神奈川県<br>横浜市<br>神奈川区 | 神奈川県<br>横浜市   | 戦災           | 昭和11年 | 12     | (昭和22年)         | 父、母、兄2名、弟、<br>妹:生死不明                                       | 空襲によって一家離散後、大宮・上野で新聞売り、モライ、タバコ巻等をなす、夜は宇都宮発の列車や新宿の屋台等で過ごす。板橋養育院に今年1月3日間、千葉県成田の聖十字学園に1ヶ月収容せらる。小学校3年入学希望。                                                                            | 1      |

| No. | 本籍                | 離散時<br>住所    | 離散(浮浪)<br>理由     | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                            | 家 族                                                                                 | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                               | 出<br>典 |
|-----|-------------------|--------------|------------------|-------|--------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 30  | 栃木県<br>塩谷郡<br>塩原町 | 栃木県          | (父の死)            | 昭和8年  | 15     | (昭和22年)                                  | 父:昭和21年死亡、<br>母:4歳の時死亡                                                              | 21年4月頃上京、上野に来てモラヒ、地下道に寝る。<br>小学校3年入学希望。                                                                                                                                                                                                                | 1      |
| 31  | 東京都<br>浅草区        | 東京都          | (戦災)             | 昭和6年  | 17     | (昭和22年)                                  | 父、継母:生死不<br>明                                                                       | 継母との関係悪く学校も休みがち。6年卒業後浅草区<br>〇〇製作所に勤め、寮に弟と共に入り、弟を養う。終<br>戦後上野で靴磨き、20年7月半ばより21年8月まで横浜<br>の黒人兵舎のハウスボーイ、その間も弟を養う。兵隊<br>帰国後弟とはぐれ、タバコ巻き(東京・上野)。同年<br>夏板橋養育院に収容せられるも、同日逃亡。以後施設<br>に入ったことなし。就職希望。                                                              | 1      |
| 32  | 東京都<br>浅草区        | 東京都          | (戦災)             | 昭和10年 | 13     | (昭和22年)                                  | (父、継母:生死<br>不明)                                                                     | No31の弟。罹災後、横浜三菱ドックに浮浪者と共に居、<br>兄に養われる。兄とはぐれた後は、大宮方面の農家に<br>てモラヒ、兄と再会後はタバコ巻、二人で多いときは<br>約百円ありと、半年ほど前調布の六東園に約一ヶ月お<br>り食料不足の為逃亡、勉強は嫌いなるも3年入学希望。                                                                                                           | 1      |
| 33  | 神奈川県<br>横浜市<br>中区 | 神奈川県<br>横浜市  | 戦災               | 昭和6年  | 17     | 昭和22年<br>4月17日                           | 養父母:戦災死                                                                             | 昭和20年5月29日中区黄金町にて罹災。養父母を失う。<br>罹災後は約一年各地を転々と浮浪。結局横浜に帰り、<br>ハウスボーイ、靴磨き等に従事する。板橋養育院に約<br>2週間ほど収容された事あり。21年12月当初に保護収<br>容。21年県の中里学園に送りしも仲間との折り合い悪<br>く2月末同園を出て再び当所へ。名古屋市南区に実父<br>ありという。                                                                   | 1      |
|     | 神奈川県<br>横浜市<br>中区 |              |                  | 昭和6年  | 19     | 昭和22年<br>4月18日                           | 幼少の時某家の養<br>子となる                                                                    | 黄金町にて罹災。養父母を失い、各地を転々と浮浪す。<br>その間ハウスボーイ、靴磨きをなす。板橋養育院に2週<br>間ほど収容されしも21年12月保護所に収容。後、県立<br>中里学園へ送るも仲間と折り合い悪く22年同園逃亡。                                                                                                                                      | 3      |
| 34  | 福島県<br>磐城郡<br>四倉町 | 神奈川県<br>横浜市  | 戦災・<br>職場の<br>不和 | 昭和6年  | 17     | 昭和22年<br>5月6日                            | 父:国民学校3年<br>時に死亡、母は山<br>形県に再縁                                                       | 母の再縁後、伯父の家に引き取られ、昭和19年に溶<br>接工として横浜ドックで溶接工見習いをしていたが、<br>偶々食料の事で上役と問題を起こし、同所を出て浮浪<br>生活に入る。度胸骨の強いところから兄貴分に立てら<br>れ過去においては相当な事をしていた模様である。本<br>年2月7日第二保護所に収容。21日に春光園に送ったが<br>寮長と衝突して23日再び第二保護所に戻った。母も伯<br>父も本人が現在のような状態であることを薄々感づい<br>て一日も早く更生することを望んでいる。 | 1      |
|     | 福島県<br>磐城郡<br>四倉町 |              |                  | 昭和7年  | 17     | 第二保護所<br>:昭和22<br>年2月7日<br>寮:昭和<br>22年5月 | 父:国民学校4年<br>時に死亡、母は山<br>形県に再縁                                                       | 父は国民学校3年の時死亡。母が山形県東置賜郡和田<br>村某家に再縁したる為、四倉町の叔父の家に引き取ら<br>れる。4年生の時に居づらくて横浜に出て西戸部の叔<br>父の許に世話になる。学校卒業後、横浜ドックに入り<br>溶接見習工中、昭和20年5月29日空襲にて伯父と離散。<br>一旦福島伯父の許に帰りしも怒られて再び横浜に出<br>て浮浪生活に入る。ハウスボーイ、靴磨き等。昭和22<br>年2月27日第二保護所収容。一時春光園に行きしも寮<br>長と衝突して帰る。浮浪歴:約一年半。 | 2      |
| 35  | 愛知県<br>名古屋市       | 福岡県          | 家出               | 昭和9年  | 14     | 昭和22年<br>4月8日                            | 父:昭和19年に炭<br>鉱勤務中死亡、継<br>母あり                                                        | 父死亡後、継母との折り合い悪く、22年3月家を出て<br>浮浪生活に入る。初め下関にあり次いで名古屋市に至<br>る。4月7日第一保護所を経て当初に収容。                                                                                                                                                                          | 1      |
|     | 愛知県<br>名古屋市       |              |                  | 昭和9年  | 14     |                                          | 母:本人9歳の時<br>死亡。父:名古屋か<br>ら福岡に転勤後、<br>炭鉱事故にて昭和<br>19年12月8日死亡。<br>継母:昭和22年死<br>亡。実兄あり | 母本人9歳の時死亡。父、名古屋から福岡に転勤後、<br>炭鉱事故にて昭和19年12月8日死亡。継母更に昭和22<br>年3月23日死亡後浮浪生活に入り、名古屋に至り、実<br>兄を訪ねしもわからず。某児童と一緒に家庭学園の<br>職員に伴われ横浜に来たり、第二保護所を経て寮に<br>収容せらる。浮浪歴:殆どなし。                                                                                          | 2      |
| 36  | 京都府<br>京都市        | 大阪府          | 戦災               | 昭和7年  | 16     | 昭和22年<br>4月17日                           | 両親とも行方不明                                                                            | 昭和20年6月7日大阪市天王寺区にて罹災。両親の消<br>息が分からなくなる。その後は約一年大阪市にて闇市<br>の手伝いをなす、21年7月横浜に来て米軍の進駐と共に<br>ハウスボーイとなる。その後靴磨きをなし今日に及ぶ。<br>京都市の若宮寮に一時収容された事あり。                                                                                                                | 1      |
| 37  | 東京都<br>浅草区        | 神奈川県<br>小田原市 | (職場の<br>不和)      | 昭和7年  | 16     | 昭和22年<br>4月17日                           | 父、母と幼少期に<br>死別                                                                      | 両親の死後、姉と共に小田原に移る。国民学校の学業<br>半ばにして奉公に従事する。20年8月奉公先を出て横<br>浜に到り進駐軍のハウスボーイ、靴磨き等をなす。本<br>年2月26日当所に保護収容。                                                                                                                                                    | 1      |

| No. | 本籍                | 離散時<br>住所    | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                           | 家 族                              | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 出<br>典 |
|-----|-------------------|--------------|--------------|-------|--------|-----------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 37  | 東京都<br>浅草区        | 神奈川県<br>小田原市 | (職場の<br>不和)  | 昭和7年  | 17     | 第二保護所<br>：昭和22年<br>2月26日<br>寮：昭和<br>22年 | 2歳の時、両親と<br>もに死亡、姉あり             | 2歳の時、両親ともに死亡。姉と共に小田原に移る。<br>学校の課程半ばにして奉公に行き木工（箱根細工）を<br>覚える。昭和20年8月奉公先を出て横浜に入り、ハウ<br>スボーイを長期なす。昭和22年2月26日第二保護所に<br>収容。靴磨き。昭和22年入寮。浮浪歴：約1年半。                                                                                                                                                                   | 2      |
| 38  | 大阪府<br>大阪市        | 埼玉県          | 戦災           | 不詳    | 14     | 昭和22年<br>4月11日                          | 父：5歳の時死亡、<br>母：国民学校三年<br>時に死亡    | 昭和19年大宮にて罹災。その後兄と共に大宮の鉄道工<br>場内に在りしも兄一人の手では養育できず話し合い本<br>年3月兄の元を離れ浮浪生活に入る。4月4日第二保護<br>所に収容。                                                                                                                                                                                                                   | 1      |
| 39  | 鹿児島県<br>鹿児島市      | 兵庫県          | 戦災           | 昭和7年  | 16     | 昭和22年<br>4月29日                          | 両親ともに戦災死、<br>兄は沖縄で戦死             | 父は菓子職人で全国を転々としていた。昭和20年3月18<br>日高野山に学童疎開中、神戸市の家が空襲に遭って家<br>は焼失。罹災後は母の知り合いの家に世話になり学校<br>に通っていたが20年10月折り合いが悪くなり、家出す<br>る。初め博多に行き22年2月上京。神田銀座等でタバ<br>コ売りをしており、3月末来濱。一時保護所に収容された。                                                                                                                                 | 1      |
|     | 鹿児島県<br>鹿児島市      |              |              |       | 16     | 昭和22年<br>4月29日                          | 両親ともに戦災死                         | 博多に長く在住－舞鶴（約半年）－神戸にて父製薬工<br>場を経営（本人は知人の家に預けられたり）。和歌山<br>県高野山に学童疎開中、昭和20年3月18日神戸空襲に<br>て両親を喪う。昭和20年8月20日家に帰り捜索。市役<br>所にて500円もらい知人のいる博多に行き進駐軍靴磨<br>き、ハウスボーイ、輸送船給仕。昭和22年2月船より<br>降りる（横須賀）。上京、神田銀座等にてタバコ売り。<br>3月末横浜に来たり第一保護所に収容。仲間に誘われ<br>毛布を持ち出し沼津に行きタバコ売り。沼津にてヤク<br>ザに殴打せられ第一保護所へ、更に第二保護所を経て<br>寮に至る。浮浪歴：約一年半。 | 2      |
| 40  | 鹿児島県<br>鹿児島市      | 鹿児島県         | 戦災           | 昭和11年 | 12     | 昭和22年<br>4月8日                           | 父：沖縄方面に出<br>征後消息不明、母：<br>鹿児島で戦災死 | 20年6月罹災し母を失い浮浪生活に入る。初め5ヶ月ほ<br>どは鹿児島市にありしも爾後各地を転々浮浪す。種子<br>島、熊本、若松と各地の収容施設を渡り歩いた。相当<br>な者。                                                                                                                                                                                                                     | 1      |
| 41  | 長崎県<br>長崎市        | 長崎県          | 戦災           | 昭和5年  | 18     | 昭和22年<br>4月14日                          | 父：原子爆弾で死<br>亡、母：国民学校<br>4年時に死亡   | 母の死後父の家に引き取られ、偶々近所の者と謙早に<br>買い出しに赴きたるところに原子爆弾攻撃に遭い父の<br>一家は全滅す。爾後買い出しに行きたる人の家に養わ<br>れるも、父の遺産が少なくなるにつれ扱いが悪くなり、<br>本年1月同家の折り合いが悪くなり家出す。長崎を出<br>て直ちに東京に来たるも1月19日板橋養育院に収容さ<br>る。同院にては大人の浮浪者と一緒になれたため落<br>ち着かず、出たり入ったり。4月8日横浜へ。第一保護<br>所を経て第二保護所へ収容。                                                               | 1      |
| 42  | 東京都<br>世田谷区       | 東京都          | 戦災           | 昭和8年  | 15     | 昭和22年<br>4月30日                          | 両親、弟、妹とも<br>に戦災死                 | 昭和20年5月長野に学童疎開中に世田谷の家が焼失し<br>孤児となる。その後母校の先生の許に引き取られて面<br>倒を見てもらっていたが、偶々靴擦れが膿んで同じ町<br>内の医者家で治療を受け足の傷が良くなると共に退<br>屈して飛び出してしまった。4月18日第一保護所を経<br>て第二保護所に収容。20日中里学園に送ったが、仲間<br>にいじめられて第二保護所に戻った。                                                                                                                   | 1      |
| 43  | 東京都<br>浅草区        | 東京都          | 戦災           | 昭和9年  | 14     | 昭和22年<br>6月12日                          | 両親ともに戦災死                         | 幼少の時父兄と共にフィリピンに渡りマニラに住んで<br>いたが、20年3月初め帰国。まもなく3月9日の空襲に<br>遭って両親を亡くす。罹災後はしばらく浅草にあった<br>が9月米軍が進駐するや横浜に到り、ハウスボーイと<br>なった。21年12月末第二保護所に収容され、その後一<br>時は中里学園に入った事もあるが仲間にいじめられて<br>同園を飛び出し再び第二保護所に収容された。                                                                                                             | 1      |
| 44  | 京都府<br>福知山市       | 京都府          | 戦災           | 不詳    | 13     | 昭和22年<br>6月12日                          | 両親ともに戦災死                         | 福知山で空襲に遭い両親を失う。罹災後はしばらく京<br>都駅で貰いをしていたがその後東京駅に到り電車の中<br>に寝ては貰いを続けていた。6月8日初めて横浜を訪れ<br>た所を第一保護所に収容された。精神薄弱児。                                                                                                                                                                                                    | 1      |
| 45  | 静岡県<br>浜名郡<br>篠原村 | 静岡県          | 家出           | 昭和6年  | 17     | 昭和22年<br>6月13日                          | 記載なし                             | 幼児より台湾に渡り彼の地で育った。21年4月大竹港<br>に引き揚げ。一時は横浜でぶらぶらしていたが、郷里<br>で叔父の手伝いをさせられている中大工仕事がつらい<br>ので飛び出してしまった。その後は横浜に到り岡野町<br>の宿泊所に泊まり靴磨きをしていたが、4月23日第二<br>保護所に収容された。                                                                                                                                                      | 1      |



| No. | 本籍                | 離散時<br>住所 | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                               | 家 族                                      | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 出<br>典 |
|-----|-------------------|-----------|--------------|-------|--------|---------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 45  | 台北市<br>五分埔        | 静岡県       | 家出           | 昭和6年  | 17     | 第二保護所：<br>昭和22年<br>4月2日<br>寮：昭和22<br>年6月11日 | 父健在                                      | 台湾に出生。終戦後3月15日引揚船にて台湾発、4月1日浜松に引揚げ叔父の家に間借りす。(叔父の手伝いに面白からず)父はブリキ職にて貧なるため、本人上京出稼ぎして送金せんとし、昭和21年6月上京。11月一旦帰郷。3月再度上京、野毛露天商手伝い、靴磨きなど。浮浪歴：約半年                                                                                                                                                   | 2      |
| 46  | 福島県<br>郡山市        | 福島県       | 戦災           | 昭和10年 | 13     | 昭和22年<br>6月20日                              | 両親兄弟 (7名)<br>戦災死                         | 20年8月14日郡山市で罹災。両親兄弟 (7名) 全て死亡。孤独の身となった。罹災後一年あまり郡山にありぶらぶらしていたが、21年12月上京、上野で貰いをする事となった。本年2月8日来濱。伊勢佐木所に保護収容され2月10日第一保護所を経て第二保護所に入所した。その後2月14日横須賀春光園に送られたが定着性なく二三度同園を飛び出しついに5月初め仲間からアヤを付けられたという理由で完全に退園、久里浜に泊まって今日まで靴磨きをしていた。2月初めはいかにも田舎出といった純真さが見られたが最近では相当社会の悪風に染まってタバコを吸うようになったしずる賢くもなった。 | 1      |
| 47  | 小笠原群島<br>父島       | (新潟県)     | 職場の<br>不和    | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>1月30日                              | 父：元海軍大尉(健在)、生母：昭和14年病死、継母：健在             | 父の勤務の関係上や母の死亡によって各地を転々としていた。終戦直前父の郷里新潟県に引揚げ、22年4月小学校高等科卒業後、横浜市戸塚の〇〇に入社したが盗難の容疑をかけられ同社を出て三週間浮浪。8月家に戻り11月に鉄工所に入社するが殴られるのでそこを出て以前浮浪して知っている横浜に到り、それからは持金八百円と該当や靴を売った金で横浜、東京、上野とぶらぶらしていた。本年1月17日第一保護所に入所、23日第二保護所に移されてきた。                                                                     | 1      |
| 48  | 東京都<br>荒川区        | 東京都       | 戦災           | 昭和9年  | 15     | 昭和23年<br>9月8日                               | 父、母、弟ともに<br>戦災後行方不明                      | 20年9月疎開より帰りたるも既に家なく、小学校で約3ヶ月を過ごした後、隣人の工場で約1年間働いていたが、よく面倒を見てくれなかったので上野へ行き桜木町へ来た。この間麹町保護所に来たがそこでもよく面倒を見られなかったので逃亡、再び上野へ戻り上野で「チンピラ」と喧嘩して居られなくなったので、27日終電で横浜に来たところを刑事により入所す。                                                                                                                 | 1      |
| 49  | 静岡県<br>沼津市        | 静岡県       | 戦災           | 昭和7年  | 17     | 昭和23年<br>12月13日                             | 実父：本人6歳時<br>病死、実母：戦災<br>死、兄：関東大震<br>災で死亡 | 父死亡後、沼津空襲で母が亡くなり、町内会長宅方へ厄介になり9ヶ月ばかり居た。それから北海道函館の旅館経営某氏の厄介になり新制中学校を卒業後、函館高等工業を受験し合格するが、某氏に遠慮して(筆者註：この部分文字カスレにより判読不明)。焼津の叔母を頼って出てきたが、合わず働こうと思っ出てきたもの。                                                                                                                                      | 1      |
| 50  | 茨城県<br>水戸市<br>上市  | 茨城県       | 戦災           | 昭和7年  | 16     | 昭和22年<br>7月24日                              | 父：戦災死、母：<br>本人が3歳の時死<br>亡                | 昭和20年7月30日水戸にて罹災。父を失い孤児となる。罹災後は隣家のバラックに間借りして闇で野菜を仕入れては売っていたが、本年3月その家が手狭になったため追い出され、浮浪生活に入った。初め友達の家泊まり歩いたりしていたが、4月来濱。駅前簡易ホテルに一時身を落ち着けた。しかしやがて囊中が乏しくなるに及んで更に浮浪の度を一歩進めて列車の中に寝泊まりするに到ったが、同月21日第二保護所に収容された。爾後しばらく靴磨きをしていたが、約一ヶ月ほど前からは平沼橋付近の靴工場に通い出した。                                         | 1      |
| 51  | 愛知県<br>名古屋市       | 愛知県       | 家出           | 昭和6年  | 18     | (昭和23年)                                     | 父：昭和21年病死、<br>母：本児3歳の時<br>病死             | 本籍地に父と居住していたが、戦災に遭い愛知県安城町のおじの家に世話になるが父の死後折り合いが悪くなり、それだけの年になったら一人でやって行けといわれて、本年2月おじの家を出て名古屋駅で駅の改札の座席とりをしたり、靴磨きをしていたが、猥り込み遭い、鷹羽寮に送られたことがある。横浜に来ればハウスボーイの口があるというので友達と来浜。第一保護所を経由、第二保護所に送致。                                                                                                  | 1      |
| 52  | 東京都<br>蒲田區<br>蓮沼町 | 東京都       | 戦災           | 昭和6年  | 18     | 昭和23年<br>4月25日                              | 昭和20年5月 罹 災<br>後家族全員行方不<br>明             | 罹災後、異母兄の所に居たが、冷たいので家出。新橋や上野に居た。そして中華料理や闇市の手伝いをしていった。以後、神戸・姫路に行き進駐軍の人夫をなす。一ヶ月位前横浜に来て野毛に知人があるので露店にへ泊まり日給八十円で進駐軍の人夫をしていたが、将来を考えて桜木町の身上相談所にいき、4月5日第一児童保護所へ回される。同日第二保護所に来る。                                                                                                                   | 1      |

| No. | 本籍                          | 離散時<br>住所 | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年  | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日     | 家 族                                                                                          | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 出典 |
|-----|-----------------------------|-----------|--------------|------|--------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 53  | 東京都<br>四谷区                  | 東京都       | 戦災           | 昭和9年 | 15     | (昭和22年)           | 父：本人国民学校<br>3年頃病死、母、姉、<br>妹：戦災により行<br>方不明                                                    | 東京の四谷第三国民学校から甲府へ集団疎開中、自宅<br>が罹災し、昭和20年11月帰郷したときには家もなし家<br>族も不明だった。しばらくその付近に居たが、有楽町<br>の公園に居たり、MPハウスのハウスボーイになっ<br>たりした。その後、横浜へ来て伊勢佐木町でアメリカ<br>の兵隊と知り合いになり、戸塚の兵隊に渡されたりし<br>たが、その兵隊達が帰国するよしになったので、野毛や<br>横浜駅でぶらぶらしたという。4月17日第一保護所<br>經由第二保護所に入所。4月23日中里学園に送致し<br>たが逃亡。4月29日第二保護所に再入所。                                                                                                                                    | 1  |
| 54  | フィリ<br>ピン<br>ミン<br>ダ<br>ナオ島 | 不明        | (母の死)        | 昭和9年 | 15     | (昭和22年)<br>5月18日  | 父：フィリピン人<br>(推測)、缶詰製造<br>従事、母：沖縄人、<br>昨年病死、兄：米<br>国軍人、消息不明、<br>姉：メキシコに嫁<br>ぐ                 | 昨夏に母と日本に來たが病死したので、軍人である兄<br>を探して大阪から京都へ、京都では五ヶ月間ほど通訳<br>をしていたこともある。そのうち広島にやってきたが<br>盗難に遭って国籍証明書を紛失。東京の公使館へ赴い<br>て交渉したが適当に扱われて本年2月來濱。山手の一<br>般病院でコックをしていたが、いつまでもそうして居<br>られないと思って赤十字から軍政部に交渉した。現在<br>父の許に連絡してもらっている。                                                                                                                                                                                                   | 1  |
| 55  | 東京都<br>荒川区                  | 東京都       | 戦災           | 昭和8年 | 16     | (昭和22年)           | 父母：戦災死 (20<br>年3月9日)                                                                         | 罹災後しばらく小学校で世話になっていたが、その後<br>横須賀市の親戚を頼っていった (20年3月～21年10月)。<br>そのうちに浦賀町の大工の小僧となった。そこのおか<br>みさんがあまりうるさいので22年8月に東京に行き浮<br>浪し6日に急行に乗り静岡から浜松に行く途中捕まっ<br>て警察に入り軟禁生活をしていてが耐えられず、寮を<br>出て第一保護所に入った。                                                                                                                                                                                                                           | 1  |
| 56  | 広島県<br>尾道市                  | 広島県       | 家出           | 昭和9年 | 15     | (昭和23年)<br>1月27日  | 父：本人が生まれ<br>る前に死亡、母：<br>3歳の時病死                                                               | 母の死後尾道市向島の伯父の家に引き取られたが、伯<br>母と折り合いが悪くなり昭和21年2月頃家出して大阪<br>に行った。大阪では梅田駅で靴屋のおじさんと知り<br>合って靴磨きをしていたが、22年3月おじさんが靴直<br>しを辞めてしまったので、靴磨きを辞め上京 (大阪は<br>感化院しかないからと言う)。上野でぶらぶらしてい<br>るところを大塚の露店のおじさんに拾われてその店の<br>手伝いを始めた。8月中旬一度都の中央相談所に入っ<br>たが、一ヶ月ほどで又露店に帰った。本年10月頃その<br>おじさんが辞めてしまったので、千円の金をもらって<br>上野でぶらぶらしていた。仲間に聞いて来浜。18日第<br>一保護所へ23日第二保護所に移されてきた。これまで<br>全然施設に入ったことがないと言っているがこの言葉<br>は極めて疑わしい。大阪では一度裁判所の手にかっ<br>た事もあるらしい。 | 1  |
| 57  | 東京都<br>千代田区                 | 「満州国」     | 戦災           | 昭和8年 | 15     | (昭和22年)<br>12月28日 | 父：終戦後ロシア<br>人に撃たれて死<br>亡、母：本人が4<br>歳の時病死、弟：<br>満州の暴動の際に<br>別れる                               | 満州新京順天區に住んでおり、父の死後は日本人会<br>の孤児収容所の世話になっていた。21年8月博多に引き<br>揚げ、団長の斡旋で名古屋の鷹羽寮を経て名古屋寮に<br>収容され更に本年4月愛知県の海の家寮 (同胞援護会<br>経営) に移された。その後はまじめに中学に通ってい<br>たが、本年10月末お祭りの際に友達と喧嘩をして飛び<br>出し、名古屋に来て海の家を出るとき背負っていた衣<br>類を数点金に換えて生活していたが、やがて豊橋で<br>リュックや服を取られたりしたのであわてて上京。11<br>月東京の淀橋保護所に収容され二週間ほど居たが、仲<br>間に誘われふらふらと出て来浜。12月10日第一保護所<br>に収容された。                                                                                     | 1  |
| 58  | 大阪府<br>大阪市                  | 大阪府       | 家出           | 昭和9年 | 14     | (昭和22年)<br>12月2日  | 父：昭和18年病死、<br>母：昭和20年心臓<br>麻痺、長兄：サイ<br>パンで戦死、次兄：<br>内地で戦死、三兄：<br>徴用先で病死、長<br>姉：大阪市東成区<br>に嫁ぐ | 母の死後長兄の嫂と暮らしていたが、貧しかったので<br>学校に行かず新聞配達をしていた。昨年長兄の戦死公<br>報が入って嫂が実家に帰ってから姉の嫁ぎ先に引き取<br>られて仕事の手伝いなどをしていたが、姑が入ってき<br>てから家庭内がうまくいかず、いたたまれなくなって<br>10月20日家出した。その後は大阪は知り合いが居る<br>からまずいと考えるに直ちに上京。東京駅で貰いをして<br>いたところを25日麹町保護所に収容されたのち六東園に<br>移されたが、古い子どもたちが私的制裁を加えるので<br>いやになり、11月に同園を飛び出し横浜沼津間で新聞<br>売りをしていた。27日偶々浜松辺まで来たところ、縄<br>張りを荒らしたといつて地回りの子どもに持ち金を取<br>り上げられ食うに困って横浜駅に浮浪中、第二保護所<br>の事を聞き込んで29日來所した。                    | 1  |

| No. | 本籍      | 離散時住所   | 離散(浮浪)理由 | 出生年   | 年齢 | 調査(入所)年月日    | 家 族                       | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 出典 |
|-----|---------|---------|----------|-------|----|--------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 59  | 東京都板橋区  | 東京都     | 戦災       | 昭和10年 | 13 | (昭和22年)12月2日 | 父:七歳の時死亡、母:昭和20年3月戦災死     | 父の死後母がミシンの内職をして生計を立てていたが、20年戦災でその母を失い、ついに孤児になり浮浪生活に入るに到った。初めしばらく上野に居たが、それから東京、大宮、長野、新潟と各所を転々として富山に来たところ再びそこで空襲に遭い、高岡に移りタバコ巻きを主として生活していた。その後再び上野に戻り構内に寝てタバコ巻き、新聞売り、タカリ等をしていた。一週間ほど前横浜の方が良いと聞いて来濱。即日第一保護所に収容され、11月28日第二保護所に移されてきた。なお、本年8月には板橋養育院に収容され更に宇佐見学園に送られたが、「皆余り人を馬鹿にした」ということで3日ほどで逃亡。間もなく都中央児童相談所に収容されてそこで一ヶ月間ほど過ごし、又養育院に送られ今度は「物を取り上げられた」という理由で2日ほどで同院を飛び出すといった若干面白くない経歴を持っている。 | 1  |
| 60  | 東京都浅草区  | 東京都     | 戦災       | 昭和7年  | 16 | (昭和22年)11月4日 | 父、母、弟、妹全員昭和20年3月9日本籍地で戦災死 | 5歳から10歳まで両親がちゃんとしていながら保土ヶ谷の父方の叔父の許で育ったという妙な経歴を持っている。戦災により孤児となってから一時本所錦糸町の店の者の家に厄介になり学校にも通っていたが、やがてその家が郷里に引き込む事となったため、20年7月ついに浮浪生活に入るに到った。終戦後間もなくひょっとした機縁で進駐軍に拾われて来濱。ハウスボーイとなり本年5月まで519MPハウスに居たが、兵隊の帰国で同宿舎を追われ再び浮浪生活に入った。その後は野毛でバクチ打ちの世話になっていたが、9月第一保護所に収容されて15日第二を経て中里学園に入ったが逃亡。上野で朝鮮人と知り合いになって暮らしていた。10月28日第一を経て第二に再入所。再入所してきたとき言わせた経歴が、前の時と対照して家庭の事情を除いて全部違っていたというように平然として嘘をつく。      | 1  |
| 61  | 東京都板橋区  | 静岡県     | 家出       | 昭和7年  | 16 | (昭和22年)10月7日 | 父:生死不明、母:4歳の時死亡           | 幼少の時は靴直しをしていた父親について各地を転々としていたが、山梨県都留郡忍野村の村長の家に預けられ、そこから学校に通っていたが一年ほどで父の元に戻る。その後荏原区の家へ預けられ学校にも通わせてもらった。空襲が激しくなり一家と共に静岡県富士宮市に移る。今から二年ほど前、掃除のことで叱責され同家を飛び出し浮浪生活に入るに到った。主として野毛あたりに集くつて進駐軍の人手靴磨きなどをしていたが、昨年12月末第二保護所に収容され、1月上旬中里学園に送られた。ところが2月下旬には仲間と喧嘩して学園を出て再び第二保護所に入った。その後4月に春光園に送られたが、数日にしてたいした理由もなく仲間と共に同園を飛び出して久里浜に赴き、逗子、鎌倉周辺で靴磨きをしていた。10月2日葉山警察より第二保護所に引き取る。                         | 1  |
| 62  | 神奈川県平塚市 | 神奈川県平塚市 | 施設逃亡     | 昭和8年  | 15 | 昭和22年9月23日   | 父:2歳の時死別、母:元平塚第一国民学校訓導    | 平塚中学に在学中手癖が悪く、屢々問題を起こしていたがついに退学となり、母もこれが原因で教職を退き、中里学園の園長に私淑して保母として21年12月末に住み込んだ。しかし、その後も他の子どもたちと共にかく事件の渦中にあったが本年4月には平塚に赴き知人の家より衣類数点を持ち出してこれを売却、飲食に浪費したが、9月22日には他の園児3名と共に謀して毛布その他を携行して逃亡を企て同夜第二保護所に収容された。                                                                                                                                                                               | 1  |
| 63  | 東京都本所区  | 東京都     | 戦災       | 昭和8年  | 15 | 昭和22年8月26日   | 父:中支方面に出征し生死不明、母:2歳の時死亡   | 父の出征後、向島区吾嬬町の母方の親戚に預けられ、学校に通っていたが、長野県に学童疎開中、その家は罹災し、終戦後、帰郷して訪ねてみたが不明なので浮浪生活に入るに到った。主として上野にあり、貰いや新聞売りをしたりしていたが、板橋養育院を経て千葉県八街学園に先発隊として送り込まれたこと(食事が合わないで10日位で逃げた)、荒川の一時保護所に2回ほど収容されたこと、また養育院を経て宮城県の女川町の漁師の家に他の子どもたちと共に送られたこと(21年11月頃から本年6月まで、おばさんが余り文句を言うので出た)等色々の事をしてきたが最近上野でタバコを巻いて売っていた。8月15日、以前この保護所にいたことのある子どもと共に直接第二保護所に来てからこの十日間ほどでやや落ち着きをもってきたが、未だ完全に浮浪児臭が抜けきらず、日常の行動にも陰がある。      | 1  |

| No. | 本籍                  | 離散時<br>住所     | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年        | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日  | 家 族                                                             | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 出典 |
|-----|---------------------|---------------|--------------|------------|--------|----------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 64  | 神奈川県<br>横浜市<br>西区   | (神奈川県<br>横浜市) | 戦災           | 昭和9年       | 15     |                | 父：戦災死、母：<br>戦災後病死、兄：<br>健在                                      | 父死亡後本人はすぐ磯子区六浦町の叔父の洋服商に行き、1年半ほど居た。その間小学校2～3年中退す。家出の原因はただつまらなくなったからと言う。家出後は主として野毛・横浜等にてスリ（人夫の服より）をし靴磨き、タバコひろい等をす。一日平均二百円稼ぐよし。兄は父死亡後、本人と野毛にて三週間に一遍くらい会い、常に二百円くらい所持し五十円くらいくれるよし。服装はよく本人は保護施設に入っているという。しかし住所は教えないと。浮浪中二ノ宮に収容せられ二ヶ月後一度逃亡したるも捕まり、校舎落成後間もなく又逃亡（その間約二ヶ月）原因は友達逃げ又作業がはげしいから。                  | 1  |
| 65  | 大阪府<br>大阪市          | 大阪府           | 戦災           | 昭和12年      | 13     | 昭和24年<br>2月16日 | 父：出征後不詳、<br>母：大阪で戦災死、<br>兄、姉：戦災の折<br>離別                         | 兄姉に離別して以来、日本の兵隊に拾われて一の宮で養われていた。終戦後、函館で一年位靴磨きや貰いをしていた。爾後各施設等を遍歴、最近は2月初旬より当初にて保護中のもの。                                                                                                                                                                                                                 | 1  |
|     | 大阪府<br>大阪市          |               |              | 昭和<br>12年？ | 13     | 昭和24年<br>2月17日 | 父：不詳、母：昭<br>和20年大阪で戦災<br>死、兄・姉：戦災<br>時離別                        | 兄姉に離別以来日本兵隊に拾われ一の宮で養われていた。その後函館で1年くらい靴磨きや貰いをなす。以後各施設を遍歴し2月初旬第一保護所へ入所。                                                                                                                                                                                                                               | 3  |
| 66  |                     | 東京都<br>(戦災)   |              | 昭和8年       | 17     | 昭和24年<br>2月17日 | 父：戦犯、元陸軍<br>大尉、母：本人生<br>後すぐ死亡、継母：<br>行方不明                       | 母死後、祖母と大阪で暮らしてきた。5年の時祖母死亡。大阪の知人宅に預けられたが少して戦災に遭い、集団疎開で和歌山へ行き、父が帰り継母が来た。一緒に東京に出たが本年3月戦犯で父親が小菅刑務所へ行き、継母が行方不明になった。洋服屋に住み込んで奉公に行ったが肋膜になりその後施設へ送られた。                                                                                                                                                      | 1  |
|     | 大阪府<br>大阪市          |               |              | 昭和8年       | 17     | 昭和24年<br>2月17日 | 父：元陸軍大尉戦<br>犯にて服役中、母：<br>本人生後すぐ死亡、<br>継母：父と小菅<br>刑務所に行き行<br>方不明 | 実母死亡後祖母と共に大阪で暮らしていた。父は時々軍隊から戻ってきていた。小学校5年の時祖母死亡、大阪の知人宅に預けられていたが、戦災に遭い集団疎開で和歌山へ行き終戦で父戻り継母も来て上京。23年3月父が戦犯にて服役後、母行方不明。洋服屋に住み込み奉公するも肋膜にてやめその後施設に入れられた。2月27日自由外出せしめたる際、施設児童を誘い逃亡の企をなす。<br>欄外に朱書「逃亡」記載あり。                                                                                                 | 3  |
| 67  | 東京都<br>中野区          | 東京都           | 戦災           | 昭和8年       | 17     | 昭和24年<br>3月31日 | 父：蒲田で戦災死、<br>母：2歳の時死亡                                           | 父親は昭和20年6月蒲田付近で空襲のため列車内で死亡。その後板橋養育院に収容され、21年頃迄居たが、生活がいやで逃亡。名古屋で米船に乗船、沖縄に渡った。沖縄ではハウスキーパーをしていたが、昭和23年沖縄で戸籍調査があり、その折り戸籍なきため23年12月29日駆逐艦で内地に返還された（佐世保港着）。佐世保から山口児童相談所に泊まり、相談所で横浜に行くように言われ、切符をもらったが列車中で切符と紹介状を無くしたので大阪の同胞援護会に宿泊し、列車に乗り新宿に居たが新宿より来浜した。                                                    | 1  |
|     | 東京都<br>中野区          |               |              | 昭和8年       | 17     |                | 両親ともに死亡                                                         | 本籍地で出生、本人2歳の時実母は死亡し、その後父親の手で育てられた。父親20年6月蒲田付近で空襲を受けた列車内で死亡。その後板橋養育院に収容され21年9月までいたが生活が嫌で逃亡。名古屋で乗船沖縄に行く。沖縄でハウスキーパーをしてきた。昭和23年戸籍調査があり其の折戸籍なきため23年12月29日駆逐艦により内地に送還された（佐世保上陸）。1月10日佐世保出発し山口相談所で3日ほど泊まり横浜に行くよう言われ、切符を買ってもらったが列車中で相談所宛書面と切符を紛失し大阪の引揚援護会に宿泊し2月23日列車で東京にいたが27日より新宿より来浜した。<br>欄外に朱書「逃亡」記載あり。 | 3  |
| 68  | 富山県<br>高岡市<br>(現住所) | 富山県           | 家出           | 昭和12年      | 13     | 昭和24年<br>2月21日 | 父：健在、母：本<br>人6歳の時死亡、<br>異母妹2人あり                                 | 2月6日家出。父が北海道へ注文取りに出張中、部屋を借りていた大家から金をとったといわれて逃亡してきたもの。                                                                                                                                                                                                                                               | 1  |
|     | 富山県<br>高岡市          |               |              | 昭和12年      | 13     | 昭和24年<br>2月21日 | 父：健在、母：本<br>人6歳の時死亡、<br>異母妹2人あり                                 | 2月6日家出。父は北海道へ注文取りに出張中部屋を借りている大家から金をとったと云われて逃げてきたもの。欄外に朱書「帰宅」記載あり。                                                                                                                                                                                                                                   | 3  |



| No. | 本籍                        | 離散時<br>住所   | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                        | 家 族                                     | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                                          | 出<br>典 |
|-----|---------------------------|-------------|--------------|-------|--------|--------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 69  | 東京都<br>城東区                | 東京都         | 戦災           | 昭和8年  | 17     | 昭和24年<br>3月1日                        | 父：戦災死、母：<br>戦災死（推測）                     | 罹災後、西は鹿児島から北は北海道と全国を浮浪、21年2月青森駅で汽車に轢かれて左足下腿を失ふ（6月まで入院）。その後上京して有楽町でモラヒをしてきたが、進駐軍の兵隊の斡旋で下落合の国際聖母病院に入り義足をつけてもらう。本年4月初めそこから福音寮に送られたが4月末に逃亡。東海道線内で新聞売りをしてきた。23年6月来浜したもの。                                                                                               | 1      |
| 70  | 東京都<br>豊島区                | 東京都         | 戦災           | 昭和11年 | 14     | 昭和24年<br>4月30日                       | 両親ともに本人幼少時に病死、姉、兄、弟：池袋で戦災死              | 罹災後直ちに来浜し本町あたりで浮浪。22年3月15日第一保護所へ入り実習学校へ送られたが逃亡。23年2月2日再び第一保護所へ来て唐池学園へ送致されたが即日保護所へ戻ってきた。23年5月14日多摩少年院入院。本年4月23日退院当所へ送致せられ来たもの。少年院在院中は逃走事故なく職員言うことはよく聞いていたという。                                                                                                      | 1      |
| 71  | 東京都<br>深川区                | 東京都         | 戦災           | 昭和7年  | 18     | 昭和24年<br>8月4日                        | 両親ともに戦災死、弟：行方不明                         | 父は船頭、3月10日の空襲の際、両親死亡し弟と一晩海の中で難を逃れたが弟は体が悪く洲崎病院に入院させたが一週間ばかりで逃亡したきり行方不明となった。区役所に来たが寝食の世話だけで何もすることがなかったのを弟を探したが不明。東京、浅草、松戸で新聞売りをしていた。船員になりたいという希望があり、それまでの間施設での入所を希望。                                                                                                | 1      |
| 72  | 広島県<br>尾道市<br>(保護者<br>住所) | 和歌山県        | 養育<br>放棄     | 昭和9年  | 16     | 昭和24年<br>7月27日                       | 父：本人6歳の時出征、未帰還、母：本人14歳の時家出、兄：和歌山のバン屋にいる | 本人新制中学1年の時母が行方不明となり、22年6月に叔父のところへいったが、そこの息子が嫁を貰うので祖母の家にに行けと言われ、和歌山県の祖母の所に行った。10日位いたが、祖母が一人では養えないから帰れといったが、帰ることも出来ないで大阪の警察に行った。大阪の相談所から愛育会に送られ9月頃までいて逃亡、長野の風越寮に入り、7月まで居て寮長が短気であるので逃亡した。                                                                            | 1      |
| 73  | 茨城県<br>久慈郡<br>(保護者<br>住所) | 茨城県         | 家出           | 昭和9年  | 16     | 昭和24年<br>9月10日                       | 父：存命、母：本人幼少時に死亡、<br>継母：存命               | 終戦2ヶ月前に家出、あんまり山奥で嫌だから。それからすぐ家に帰って、また21年の夏家出する。千葉の駅で切符ブローカーをやり、2、3ヶ月位横浜に来て今まで居た。靴磨き、モク拾い、ハウスボーイをした。23年春光園に送致され半年で逃亡して野毛に帰った。                                                                                                                                       | 1      |
| 74  | 不詳                        | 不明          | 不明           | 昭和13年 | 12     | 昭和24年<br>9月16日                       | 不詳、家があるらしい                              | feeble-mindedにつき生活史不詳、大塚相談所、ニゾクリヤマの相談所にも入った事ありという。浮浪生活はあまり長くないと思われる。                                                                                                                                                                                              | 1      |
| 75  | 宮城県<br>仙台市                | 宮城県         | 家出           | 昭和11年 | 14     | 昭和24年<br>12月14日                      | 父：存命、母：本<br>児12歳の時死亡、<br>弟：交通事故で死<br>亡  | 23年8月15日に家出す。上野にて浮浪。大塚相談所に度々出入りしていたが、横浜に来てタバコ拾いをしてた。横浜野毛方面を中心に浮浪しているもの。本年父の迎えあるも逃亡。単独にて仙台に帰郷せるも直ちに来横現在に至る。                                                                                                                                                        | 1      |
| 76  | 神奈川県<br>横浜市<br>中区         | 神奈川県<br>横浜市 | 家出           | 昭和10年 |        | 昭和21年<br>3月1日？                       | 母は幼少のころ死亡、戦災ののち弘明寺付近に父、兄、姉、弟とあり         | 母は幼少のころ死亡、戦災ののち弘明寺付近に父、兄、姉、弟とあり、この間父は神経痛で入院。兄の愛情乏しく、つまらなきため家出し浮浪中、同盟テントに収容せらる。父は昭和22年3月死亡せる由。浮浪歴：約半年？                                                                                                                                                             | 2      |
|     | 神奈川県<br>横浜市               |             |              | 昭和10年 | 15     | 昭和22年<br>4月1日                        | 父：一昨年病死、<br>母：本人7歳の時<br>病死、兄あり          | 桜木町付近で靴磨きをしていた。                                                                                                                                                                                                                                                   | 3      |
| 77  | 不明                        | 不明          | 家出           | 昭和9年  | 14     | 第二保護所：<br>昭和22年4月<br>寮：昭和22<br>年7月6日 | 父は3歳、母は2歳の時死亡。母方の祖母の手元にて兄と養われる          | 家は農業をしありしも父は3歳、母は2歳の時死亡。母方の祖母の手元にて兄と養われる。昭和20年9月祖母死し後とりの母の弟京都に転入しその許に養われる。面白くなっているうち、博多の兄（船乗り、炊事）が帰省し共に博多に連れてゆく。さらに姉の許に兄と世話なり更に大阪の姉の許に至り自転車会社に就職。一歩先に来浜就職せる兄の勧めにより共に反町の残飯屋に住み込み残飯の配達などなす。仕事に興味なく兄の諒解を得て久里浜に寝泊まりして野毛にて靴磨き中本年4月末に第二保護所へ。4月26日春光園へ。5月26日脱出し第二保護所へ帰る。 | 2      |
|     | 宮城県<br>児湯郡<br>上徳北村        |             |              | 昭和9年  | 16     | 昭和22年<br>7月6日<br>昭和23年<br>8月28日      | 父は3歳の時、母<br>は2歳の時死亡                     | 両親死亡後、昭和20年9月祖母の手に委ねられたが3ヶ月で面白くなく異母兄を頼って博多へ。異母兄と共に浮浪。来浜の上反町の残飯屋の手伝い。後、久里浜に寝泊まり野毛で靴磨き、22年4月第二保護所より春光園、同年5月26日同園逃亡。再び第二保護所へ。                                                                                                                                        | 3      |

| No. | 本籍                   | 離散時<br>住所   | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                                | 家 族                                         | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                                                                                    | 出典 |
|-----|----------------------|-------------|--------------|-------|--------|----------------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 78  | 千葉県<br>安房郡<br>平群村    | 神奈川県<br>横浜市 | 感化院<br>入院    | 昭和5年  | 18     | 昭和22年4月<br>(2月15日?)                          | 父と母は離婚、兄あり                                  | 熊本に生まれる。小学校3年まで戸畑にあり、父が母と別れたため。父と兄と3人にて横浜に来る。昭和16年4月父が二宮感化院に入れる。昭和17年12月父死亡。昭和22年4月感化院を出て横浜在住の義姉の家に数日あり。出たる後ずっとボーイズホームに収容。浮浪歴：感化院を出た後すぐ収容。                                                                                                  | 2  |
| 79  | フィリピン<br>マニラ         | 東京都         | 戦災           | 昭和9年  | 14     | 第二保護所：<br>昭和21年12月<br>月末<br>寮：昭和22年<br>6月13日 | 母は幼少の時死亡。父と兄は空襲で行方不明                        | 母は幼少の時死亡。幼少の時父兄と比島に渡り父は大工職、戦争末期昭和20年3月帰国。東京に落ち着くと同時に焼け出される。父、兄とはぐれ消息不明。罹災後暫く浅草にありしも8月横浜に出て運よくずっとハウスボーイを勤めたり。第二保護所に収容後、中里学園に入りしも田舎故面白からず、復帰せり。浮浪期間：約1年半。                                                                                     | 2  |
| 80  | 東京都<br>品川区           | 東京都         | 戦災           | 昭和9年  | 14     | 第二保護所：<br>昭和20年12月<br>25日                    | 両親ともに罹災後行方不明                                | 両親、本人の3人家族なりしが、昭和20年3月9日罹災離散。約1ヶ月上野にあり、横浜に来たり、桜木町駅、野毛、焼跡教会等に転々泊まり歩く。昭和20年12月24日クリスマス、新興クラブにて狩られ第二保護所に入る。                                                                                                                                    | 2  |
| 81  | (栃木県<br>足利市)         | 茨城県         | 家出           | 昭和8年  |        |                                              | 実父死亡、2人目の父も死亡し、3人目の父あり                      | 足利に生まれ小学校4年の時勿来町に移り、実父死亡。二度目の父病死。10歳の時高萩に移る。生活苦の中で現在の父を持つ。父は博打打ちにて本人を漁師の許に奉公に出す。小使いなどに使われる。1年程して帰郷家出。浮浪生活に入る。21年3月横浜に来る。                                                                                                                    | 2  |
| 82  | 北海道<br>虻田郡<br>狩田村    |             |              | 昭和2年  | 21     | 昭和21年<br>9月頃                                 |                                             | 東京に生まれる。継父死亡の時栃木県にあり。兄とは3歳の時生き別れ。昭和18年警視庁少年警察官拝命。昭和21年退職。8月頃九州に職探しに行く。昭和21年9月横浜に来る。同盟にて人夫、靴磨き。浮浪歴：約2ヶ月。                                                                                                                                     | 2  |
| 83  | 長野県<br>南佐久郡<br>小海村   |             |              | 大正14年 | 23     | 昭和21年                                        |                                             | 14歳の時兄と仲悪く父母と相談して上京。京橋の茶道具店に住み込み、16歳家事都合により退店、家に帰る。17歳の時兄弟喧嘩絶えず母に相談状況川崎日本製鉄株式会社に入社。昭和20年6月入隊、終戦後復員本籍地に帰る。9月再三兄と喧嘩家出。川崎市の日鉄会社勤務。昭和21年1月会社解散本籍地に帰る途中、上野にて不良にピストルで頭を殴られ人事不省、気づいたとき桜木町役の省電の中裸体、全部取られ本籍に帰れなくなる。昭和21年3月頃桜木町駅前幕舎同盟テントに入る。浮浪歴：殆どなし。 | 2  |
| 84  | 神奈川県<br>横浜市<br>保土ヶ谷区 |             |              | 大正14年 | 23     | 昭和21年<br>3月頃                                 | 両親は戦争前死亡                                    | 両親は戦争前死亡。学校卒業後、旋盤仕上作業。労務6年間。戦災に遭い離職。昭和20年4月現役、滋賀県八日市中部575部隊に入隊。終戦を迎える。横須賀市にありて市内の工場に通い旋盤。独立の希望をもって昭和20年11月横浜に来る。人夫その他に従事、同盟に収容。浮浪歴：約4ヶ月                                                                                                     | 2  |
| 85  | 東京都<br>浅草区           | 東京都         | 戦災           | 昭和7年  | 16     | 昭和22年<br>5月7日                                | 父、継父ともに空襲前に死亡                               | 父は昭和14年病死。継父も罹災前病死。国民学校卒業後、工場通勤。夜警の日昭和20年5月29日空襲。家、工場共に焼けその後家族の消息不明。昭和20年12月まで東京上野にて浮浪、横浜に来る。桜井町テントに入る。5月春光園に入る。12月より本年3、4月頃まで戦災者同盟テントにありて靴磨き。再び春光園に収容。木工部に通う。5月7日入寮（園より脱出。二回とも脱出の理由に仲間同士の待遇の不满による。浮浪歴：約10ヶ月                                | 2  |
| 86  |                      | 不明          | 家出           | 昭和9年  |        | 昭和24年<br>6月14日                               | 父：本児7歳時死亡、母：父死亡後一ヶ月で家出、兄・姉：行方不明、弟：親戚へ養子にやった | 母の家出後、伯母の家に引き取られ終戦までそこで通学していた。終戦後伯母の家も気まずく、家出し上京。上野から板橋養育院に送られ1ヶ月ほどで逃亡。日暮里の若葉寮に入った（21年11月）。24年4月4名と共に脱走し上野を中心にして浮浪す。横浜に來り浮浪中伊勢佐木町署に保護され施設へ来た。                                                                                               | 3  |
| 87  | 千葉県<br>葛飾郡           | 東京都         | 家出           | 昭和12年 |        | 昭和24年<br>12月7日                               | 両親健在というが不明                                  | 蒲田で戦災に遭い、足の火傷のため入院。間もなく未だ全快しない中に逃亡。蒲田、上野、浅草を浮浪。横浜にも時折来て靴磨きをしていた。最近与瀬の魚屋に里子に行ったが折り合いが悪く保護所へ。仲愛園→ホーム                                                                                                                                          | 3  |

| No. | 本籍                 | 離散時<br>住所     | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年    | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日                           | 家 族                                     | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                                 | 出<br>典 |
|-----|--------------------|---------------|--------------|--------|--------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 88  | 岩手県<br>稗貫郡<br>太田村  | (岩手県)         | 家出           | 昭和11年  |        | 昭和24年<br>12月7日                          | 両親、姉3人健在                                | 父の給料をそっくり1ヶ月分盗み出し家出。上京（昭和24年7月）上野を中心として浮浪中麹町保護所に引き取られ伸愛園に行く。<br>№2の児童と知り合い、一緒にボーイズホームに来る。                                                                                | 3      |
| 89  | 広島県<br>広島市         | 広島県           | 戦災           | 昭和8年   | 17     | 昭和23年<br>6月4日                           | 両親ともに原子爆弾に遭い死亡                          | 罹災後1ヶ月ほど兵隊と一緒に暮らしていた。後、佐世保に行き同市の鉄工場の人に拾われて23年4月までそこで仕事の手伝いをしていたが、その間折金やライターを盗んだので同所を出される。                                                                                | 3      |
| 90  | 山形県                | 東京都           | 戦災           | 昭和11年  |        | 昭和23年<br>6月4日                           | 父：行商人、母：本人9歳の時死亡、弟：行方不明                 | 昭和20年来浜。上野へ行き物乞い、モク拾いをす。後半年横浜に来て靴磨きをす。→第二保護所へ山形から戦前東京葛飾へ移転したが、戦災のため四散。                                                                                                   | 3      |
| 91  | 神奈川県<br>横浜市<br>西区  | 神奈川県<br>横浜市   | 戦災           | 昭和9年   | 16     | 昭和23年<br>9月27日                          | 両親、妹：戦災にて行方不明（西戸部にて）                    | 本人が学校へ行っている時に空襲に遭い家族行方不明となる。その後東京駅にて1年半位靴磨きをしていた。横浜駅に6ヶ月位居て桜木町付近を浮浪。その間米兵の世話になる。                                                                                         | 3      |
| 92  | 東京<br>四谷区          | (東京都)         | 戦災           | 昭和8年   | 17     | 昭和22年<br>4月8日<br>昭和23年<br>9月17日         | 両親ともに本所にて戦災死                            |                                                                                                                                                                          | 3      |
| 93  |                    | 「満州国」         | 戦災           | 昭和13年？ | 12     | 昭和23年<br>11月10日                         | 父：満州で戦死、母：昭和22年帰国の途中で病死、弟：引揚時死亡         | 満洲錦県より引揚、昭和22年6月佐世保上陸、近所の人に連れられ東京に行くもすぐに別れて品川でハウスボーイをする。桜木町で靴磨きをする。                                                                                                      | 3      |
| 94  | 神奈川県<br>横浜市<br>南区  | (神奈川県<br>横浜市) | 不明           | 昭和13年  | 12     | 昭和23年<br>11月10日                         | 両親は本人幼少時離別、2度目の継父あり                     | 当施設に収容中逃亡、昭和24年11月下旬フライヤージムに靴磨き少年達と同居せるを連行さる。昭和24年12月初旬医務室の金を盗み出し逃亡を企てる（指導記録）。                                                                                           | 3      |
| 95  | 神奈川県<br>横浜市<br>川崎市 | 神奈川県<br>川崎市   | 戦災           | 昭和10年？ | 15     | 昭和23年<br>11月8日                          | 両親、祖母：川崎市で20年4月15日罹災死亡す                 | 戦災後進駐軍に拾われて尾上町の兵舎に約2年8月居たが兵隊が帰ったので横浜より上野へ出て約1ヶ月貰いをしていたが再び来浜。野毛で貰い専門。                                                                                                     | 3      |
| 96  | 神奈川県<br>横浜市<br>港北区 | 静岡県           | 不明           | 昭和15年？ | 10     | 昭和23年<br>11月17日                         | 両親：不明、静岡県田方郡伊藤町の某家で養育                   | 本人の両親不明で転々と貰われて来て最後に某家へ6歳ころより養育されたもの。                                                                                                                                    | 3      |
| 97  | 山形県<br>東置玉郡<br>高畑町 | 福岡県           | 両親の死         | 昭和9年   | 16     | 昭和24年<br>2月22日                          | 父：本人13の時病死、母：本人15の時病死、弟：脳膜炎にて死亡         | 八幡市で出生。満洲奉天少安山に父は勤めていたが、20年3月死亡、母弟と3人で昭和21年8月5日に博多に上陸し同市の会社寮に住み母は寮母をしていた。本人通信講習所普通科に通学。昨年1月弟が脳膜炎にて死亡。3月に卒業し5月から中央通信局に勤めたが8月中旬より母が病気となり看護のため退職したが母9月に死亡、10月初め来浜、浮浪す。      | 3      |
| 98  | 東京都<br>荒川区         | (東京都)         | 両親の死         | 昭和10年  |        | 昭和24年<br>6月14日                          | 父：戦死、母：10歳の時死亡、伯父あり                     | 父は20年6月15日出征。11月頃戦死の公報来たり。母は19年6月14日病死す。終戦後母の実家栃木に行ったが離散。ブローカーの手伝いをしていたが弁当に困り横須賀の叔父あることを思い出し訪ねたも既に移転した後で公安官に保護され横須賀署より横須賀相談所へ行き入寮。                                       | 3      |
| 99  | 東京都<br>世田谷区        | (東京都)         | 戦災           | 昭和12年？ | 13     | 昭和24年<br>4月2日<br>昭和24年<br>12月14日<br>再入寮 | 両親：本人8歳の時肺結核で死亡、姉：本人9歳の時死亡、姉・弟：千葉の親戚にいる | 本人は8歳の時父母相次いで肺結核で死亡。時々田舎へ行行って物資の援助をしてもらいながら子供たちだけで生きてきた。翌年長姉死亡、翌年戦災に遭い一家離散。戦後税関に行き、兵隊に養われる。約4年間働くも兵隊が帰国したので相談所へ。<br>欄外に朱書「逃亡」記載あり。                                       | 3      |
| 100 | 東京都<br>荒川区         | 新潟県           | 家出           | 昭和12年  |        | 昭和24年<br>12月9日                          | 父：本人7歳の時病死、母本人9歳の時病死                    | 両親の死後、新潟県西蒲原郡の叔父のもとで養われていたが、虐待されたので家出。昭和22年夏上野に来て靴磨き。この間いわゆる「シューシャイン悲話」と新聞問題にまで上った悪事の数々を重ねた。同僚のリンチも数度受けた。ジープ荒らし、子安方面のゴム会社を襲ったりピストル不正所持などの手先をしていたところ、米人と称する某氏に拾われ、当施設に来る。 | 3      |

| No. | 本籍                        | 離散時<br>住所 | 離散(浮浪)<br>理由 | 出生年   | 年<br>齢 | 調査(入所)<br>年月日   | 家 族                              | 保護にいたる経緯                                                                                                                                                | 出<br>典 |
|-----|---------------------------|-----------|--------------|-------|--------|-----------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 101 | 広島県<br>広島市                | 広島県       | 家出           | 昭和10年 |        | 昭和24年<br>10月26日 | 両親：本人3歳の<br>時病死、養父・養<br>母・義弟あり   | 本人3歳の時叔父に預けられ実父母は知らない。戦争中広島市高田郡に疎開中家は焼けたが帰ってバラックに住んだ。義弟と喧嘩をして家出した（23年母に出されたと言う）。大阪へ行き梅田相談所経由で1ヶ月ほど岡山の成徳学院に入って4ヶ月位いた。逃亡して京都へ行きさらに24年9月末来浜。               | 3      |
| 102 | 福島県、<br>北海道<br>旭川と<br>もいう | 北海道       | 家出           | 昭和12  | 13     | 昭和22年<br>11月4日  | 父：健在、母本人<br>7歳の時死亡、兄3<br>人、妹1人あり | 幼少の時一家して北海道釧路に移住。父の仕事の関係上、釧路より更に奥地に転々とする間、沼尻にて母を失う。通学を好まず21年11月頃釧路に遊びに出た所を浮浪児に誘われて浮浪生活に入る。その後、函館－青森－仙台－福島－東京－仙台－青森－福島－上野－桜木町と各地を流浪す。二ノ宮国府実習学校に送致された事あり。 | 3      |
| 103 | 東京都<br>大田区                | 不明        | 不明           | 昭和10年 | 16     | 昭和22年<br>5月28日  | 父：昭和20年7月<br>病死、母：病臥中            |                                                                                                                                                         | 3      |
| 104 | 鶴見市<br>(横浜市<br>鶴見区<br>か)  | 不明        | 不明           | 昭和10年 | 15     | 昭和22年<br>4月1日   |                                  | 終戦後野毛で靴磨きをしていた。                                                                                                                                         | 3      |
| 105 | 香川県<br>高松市                | 愛知県       | 戦災           | 昭和10年 | 15     | 昭和23年<br>4月28日  | 両親・弟：戦災死                         | 罹災前の家庭環境は比較的良かった。名古屋にて戦災を受け左第一関節負傷。一家全滅。名古屋帝大病院にて加療後、草ナギ寮へ入り、21年1月兵隊GIに拾われ、21年7月東京へ来る。GI帰国のため「愛児の家」入寮拒絶されBoysHomeに来る。21年8月以後数か月靴磨きを東京にてやる。              | 3      |
| 106 |                           | 京都府       | 家出           | 昭和11年 |        | 昭和24年<br>12月24日 | 両親とも病死                           | 家出後は大阪の闇市で万引きを働き、警官に捕らわれ大阪阿倍野厚生館に連行されたが、数日にして逃亡上京す。上野地下道、浅草近辺を浮浪。チャリンコをして警官に捕らわれ大塚相談所に行き1回目逃亡。2回目は同所より入街学園に行ったが6月3日逃亡。浮浪中12月23日中央児童相談所に来たり翌日当施設に来る。     | 3      |

- 資料の出典について：出典欄の1は神奈川県児童相談所作成の「児童調書」記載情報、2はボーイズホーム作成の「児童身上調書」、3は「自昭・二三・一二 児童台帳」の記載情報をもとに作成した。
- 本表の順番は、出典1の資料に綴じられている順番を基本とし、出典2、3と重複する児童の情報については、出典1の児童欄の下に記載した。No76以降の順番は出典1、2の資料に綴じられた順番の通り。
- 本籍欄は、個人情報保護の観点から市町村名までにとどめ、東京都と横浜市については区名までを記載した。
- 離散時住所欄と離散（浮浪）理由欄の情報は、資料から得られる情報をもとに筆者が追加したもので、離散時住所や離散（浮浪）理由が不透明な場合は、資料から推測できる情報を丸括弧内に記した。
- 上記2欄以外の情報についても、記載がなく筆者が資料から推測した情報については、丸括弧内に記した。
- 保護に至る経緯欄は、資料の記載から個人情報を除外した情報を筆者が要約したもので、伏字は筆者によるもの。資料の欄外に記載されている特記事項等の情報についても本欄に記載した。



---

---

## 横浜都市発展記念館紀要 第17号

2022(令和4)年3月31日発行

---

|       |                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 編 集   | 横浜都市発展記念館<br>〒231-0021<br>横浜市中区日本大通12<br>TEL 045-663-2424<br>FAX 045-663-2453 |
| 発行    | 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団                                                             |
| 装 幀   | 木 村 寛                                                                         |
| 印刷・製本 | 株式会社佐藤印刷所                                                                     |

---

---